

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 慶應義塾
理事長 伊藤 公平

慶應義塾大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒108-8345 東京都港区三田二丁目15番45号
氏名	学校法人 慶應義塾

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

慶應義塾大学病院

3 所在の場所

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
電話(03)3353-1211

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	11リウマチ科

診療実績

--

- 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	漢方内科	2	腫瘍内科	3	内視鏡外科	4	移植外科	5	腫瘍外科
6	形成外科	7	頭頸部外科	8	リハビリテーション科	9	病理診断科	10	臨床検査科
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
16				934	950

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	735	11.4	746.4	看護補助者	79	診療エックス線技師	0
歯科医師	20	0.8	20.8	理学療法士	17	臨床検査技師	186
薬剤師	122	3.6	125.6	作業療法士	4	臨床検査 衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	19	その他	0
助産師	54	0	54.0	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1176	8.8	1184.8	臨床工学士	38	医療社会事業従事者	12
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	65
歯科衛生士	5	0	5.0	歯科技工士	3	事務職員	253
管理栄養士	15	0	15.0	診療放射線技師	104	その他の職員	8

1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	90	眼科専門医	17
外科専門医	45	耳鼻咽喉科専門医	15
精神科専門医	15	放射線科専門医	39
小児科専門医	29	脳神経外科専門医	14
皮膚科専門医	16	整形外科専門医	34
泌尿器科専門医	13	麻酔科専門医	25
産婦人科専門医	30	救急科専門医	12
		合計	394

1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

(注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (松本 守雄) 任年月日 令和 3 年 5 月 28 日

- ・整形外科 診療科部長として科内の安全管理
平成24年1月～令和3年5月
- ・医療安全管理委員会への参加
平成27年10月～平成29年7月 医療安全対策室副部長として委員参加
(※ 平成28年6月 医療安全対策センター、平成29年5月 医療安全管理部に名称変更)
平成29年8月～令和3年5月 手術センター長として委員参加
(※ 平成30年11月 手術・血管造影センターに名称変更)
令和3年6月～令和3年8月 病院長代行としてオブザーバー参加
令和3年9月～現在 病院長としてオブザーバー参加
- ・病院執行部として病院全体の安全管理
平成29年8月～令和3年5月 副病院長として管理補佐
- ・病院長代行として全体管理
令和3年5月～令和3年08月
- ・病院長として全体管理
令和3年9月～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	728.6 人	7.3 人	735.9 人
1日当たり平均外来患者数	3,038.80 人	146.9 人	3,185.70 人
1日当たり平均調剤数			6,212.40 剤
必要医師数			244 人
必要歯科医師数			9 人
必要薬剤師数			78 人
必要(准)看護師数			475 人

- 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- (注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要				
集中治療室	525 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	26 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有	
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	451	㎡	病床数	35 床	
	[移動式の場合]	台数		台			
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	40 ㎡				
	[共用室の場合]	共用する室名					
化学検査室	836 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	分析器など			
細菌検査室	219 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	分析器など			
病理検査室	378 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	分析器など			
病理解剖室	187 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖設備など			
研究室	29,186 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ドラフトチャンバーなど			
講義室	1,453 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	7	室	収容定員	1191 人
図書室	1,736 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	2	室	蔵書数	439,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	84.6	%	逆紹介率	83.1	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		24,042 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		28,658 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,123 人		
	D: 初診の患者の数		34,480 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
山口 徹	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 名誉院長	○	虎の門病院の元病院長であり、病院管理者として医療安全に携わり、幅広い知識と豊富な実務経験を有する	無	1
市村 尚子	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 スタッフ		前日本看護協会研修センター長であり、管理者として医療安全について十分な知識と実務経験を有する	無	1
宇都宮 啓	公益財団法人 日本建築衛生管理 教育センター 理事長 他		厚生労働医官として永年にわたり国内の医療行政に従事するとともに(2018-2019:健康局長など)、WHOにも派遣され、医療安全および国際的基準での対応について幅広い知識と国内・国外における経験を有する	無	1
宮沢 忠彦	関谷・宗像法律 事務所 弁護士		長年法曹界に身をおき、法律についての豊富な専門知識と実務経験を有する	無	1
山口 育子	認定NPO法人 ささえあい医療 人権センターCOML 理事長 他		医療を受ける者の立場を代表する患者支援団体の理事長として、医療安全についての知識を有する	無	2

「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

- (注)
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ウェブサイトに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	トラスツズマブ エムタンシン 静脈内投与療法	取扱患者数	2
<p>当該医療技術の概要</p> <p>現時点で乳房外パジェット病に投与できる薬剤や治療法には、保険収載されているものがなく、標準治療がない状況です。</p> <p>乳房外パジェット病に対するHER2阻害薬治療としては、過去にトラスツズマブによる治療の症例報告があり、本邦では当院において、HER2陽性乳房外パジェット病を対象とした、トラスツズマブ、ドセタキセル併用療法の臨床試験を先進医療Bとして実施していました(2019年4月症例登録終了)。</p> <p>一方で、乳房外パジェット病に対してトラスツズマブ エムタンシンを用いて治療を行った臨床試験はありませんが、トラスツズマブによる治療歴のあるHER2陽性乳癌に対してはすでに安全性、有効性が確立された治療法であり、海外においても、乳癌に対する本治療の有用性は検証・確立しており、乳房外パジェット病においてもその効果が期待されます。</p> <p>この患者申出療養制度に基づく臨床試験では、HER2陽性の手術不能又は再発乳房外パジェット病の患者さんのうち、過去にトラスツズマブによる治療を受けたなど、定められた基準を満たした患者さんに対してトラスツズマブ エムタンシンを用いた治療を21日おきに行い、有効性について評価します。治療による副作用についても評価します。有効である場合、最長で2年間の投与が可能な試験になっています。</p>			
医療技術名	マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療	取扱患者数	37
<p>当該医療技術の概要</p> <p>保険診療もしくは先進医療として実施されている遺伝子パネル検査を受け、actionableな遺伝子異常(反応が期待できる治療薬があるような遺伝子異常)を有することが判明したものの、該当する治験や先進医療に参加できないような患者さんの申出に基づいて行います。本療養に組み込まれている医薬品のうち当該遺伝子異常に対応する適応外薬を患者申出療養制度に基づいて投与し、安全性や有効性を評価することを目的としています。</p>			
医療技術名	経皮的胸部悪性腫瘍凍結融解壊死療法	取扱患者数	2
<p>当該医療技術の概要</p> <p>経皮的凍結融解壊死療法は、局所麻酔下になんへ凍結針を刺し、がんを凍らせて壊死させる治療法です。本治療法は、放射線療法や化学療法とは全く異なるメカニズムでがん細胞を壊死させるため、放射線療法や化学療法が効きにくいがんに対しても効果が期待されます。また、治療後に呼吸機能が低下しないことも特徴のひとつです。放射線療法との違いとして、凍結部位に再発を来した場合に繰り返し治療が行えるというメリットもあります。</p> <p>近年、胸部悪性腫瘍に対する本治療法の安全性と長期治療成績について、科学的根拠が得られてきていますが、過去当院においても約240名の肺悪性腫瘍の患者さんにこの治療を行っていました(2002年～2016年)。</p> <p>一方で、現在本邦において、本治療法で使用する医療機器はいずれも小径腎悪性腫瘍のみを治療対象として保険適用されています。</p> <p>この患者申出療養制度に基づく臨床試験では、肺悪性腫瘍、縦隔悪性腫瘍、胸膜悪性腫瘍又は胸壁悪性腫瘍の患者さんのうち、手術・放射線療法・化学療法など標準治療を受けられないもしくはそれらの治療後に再発を来したなど、定められた基準を満たした患者さんに対して経皮的凍結融解壊死療法を行い、有効性や安全性について評価します。</p>			
医療技術名		取扱患者数	
<p>当該医療技術の概要</p>			
医療技術名		取扱患者数	
<p>当該医療技術の概要</p>			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	3
扱い患者数の合計(人)	41

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	筋萎縮性側索硬化症	20	51	原発性免疫不全症候群	11
2	脊髄性筋萎縮症	3	52	IgA 腎症	43
3	原発性側索硬化症	1	53	多発性嚢胞腎	37
4	進行性核上性麻痺	10	54	黄色靱帯骨化症	11
5	パーキンソン病	198	55	後縦靱帯骨化症	72
6	大脳皮質基底核変性症	1	56	広範脊柱管狭窄症	8
7	シャルコー・マリー・トゥース病	5	57	特発性大腿骨頭壊死症	67
8	重症筋無力症	285	58	下垂体性ADH分泌異常症	25
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	238	59	下垂体性PRL分泌亢進症	8
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	20	60	クッシング病	4
11	封入体筋炎	1	61	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
12	クドウ・深瀬症候群	1	62	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	15
13	多系統萎縮症	23	63	下垂体前葉機能低下症	85
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	42	64	甲状腺ホルモン不応症	1
15	ライゾーム病	22	65	先天性副腎皮質酵素欠損症	20
16	ミトコンドリア病	4	66	先天性副腎低形成症	1
17	もやもや病	40	67	サルコイドーシス	49
18	HTLV-1関連脊髄症	2	68	特発性間質性肺炎	26
19	全身性アミロイドーシス	112	69	肺動脈性肺高血圧症	116
20	遠位型ミオパチー	2	70	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	195
21	神経線維腫症	80	71	リンパ管筋腫症	3
22	天疱瘡	109	72	網膜色素変性症	59
23	表皮水疱症	16	73	バッド・キアリ症候群	4
24	膿疱性乾癬(汎発型)	6	74	特発性門脈圧亢進症	4
25	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	75	原発性胆汁性胆管炎	74
26	中毒性表皮壊死症	2	76	原発性硬化性胆管炎	42
27	高安動脈炎	46	77	自己免疫性肝炎	45
28	巨細胞性動脈炎	25	78	クローン病	729
29	結節性多発動脈炎	23	79	潰瘍性大腸炎	1411
30	顕微鏡的多発血管炎	17	80	好酸球性消化管疾患	10
31	多発血管炎性肉芽腫症	31	81	腸管神経節細胞減少症	7
32	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	27	82	CFC症候群	1
33	悪性関節リウマチ	26	83	チャージ症候群	1
34	バージャー病	4	84	若年性特発性関節炎	6
35	原発性抗リン脂質抗体症候群	8	85	TNF受容体関連周期性症候群	1
36	全身性エリテマトーデス	465	86	非典型溶血性尿毒症症候群	1
37	皮膚筋炎／多発性筋炎	146	87	先天性ミオパチー	1
38	全身性強皮症	129	88	筋ジストロフィー	16
39	混合性結合組織病	64	89	脊髄空洞症	7
40	シェーグレン症候群	177	90	脊髄髄膜瘤	1
41	成人発症スチル病	57	91	脳表ヘモジデリン沈着症	4
42	再発性多発軟骨炎	4	92	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
43	ベーチェット病	89	93	前頭側頭葉変性症	3
44	特発性拡張型心筋症	65	94	レノックス・ガストー症候群	3
45	肥大型心筋症	46	95	ウエスト症候群	1
46	再生不良性貧血	42	96	結節性硬化症	16
47	自己免疫性溶血性貧血	6	97	先天性魚鱗癬	8
48	発作性夜間ヘモグロビン尿症	14	98	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	67
49	特発性血小板減少性紫斑病	83	99	特発性後天性全身性無汗症	1
50	血栓性血小板減少性紫斑病	2	100	眼皮膚白皮症	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
101	マルファン症候群／ロイス・ディーツ症候群	21	141	リンパ管腫症/ゴーハム病	16
102	エーラス・ダンロス症候群	13	142	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	4
103	ウィルソン病	9	143	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
104	VATER症候群	1	144	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	11
105	モワット・ウィルソン症候群	1	145	後天性赤芽球癆	1
106	クルーゾン症候群	5	146	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	2
107	アペール症候群	2	147	クロンカイト・カナダ症候群	4
108	ファイファー症候群	1	148	非特異性多発性小腸潰瘍症	3
109	歌舞伎症候群	1	149	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	1
110	多脾症候群	1	150	総排泄腔外反症	3
111	無脾症候群	2	151	総排泄腔遺残	3
112	ウェルナー症候群	2	152	胆道閉鎖症	36
113	プラダー・ウィリ症候群	2	153	アラジール症候群	1
114	22q11.2欠失症候群	4	154	IgG4関連疾患	37
115	修正大血管転位症	2	155	黄斑ジストロフィー	1
116	完全大血管転位症	3	156	アッシャー症候群	1
117	単心室症	3	157	若年発症型両側性感音難聴	1
118	三尖弁閉鎖症	6	158	好酸球性副鼻腔炎	49
119	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	2	159	先天性僧帽弁狭窄症	1
120	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	5	160	特発性血栓症 (遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
121	ファロー四徴症	14	161	前眼部形成異常	1
122	両大血管右室起始症	1	162	無虹彩症	8
123	エプスタイン病	1	163	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	1
124	アルポート症候群	3	164	特発性多中心性キャスルマン病	33
125	一次性ネフローゼ症候群	37			
126	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2			
127	紫斑病性腎炎	4			
128	オスラー病	37			
129	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1			
130	肺胞低換気症候群	2			
131	複合カルボキシラーゼ欠損症	1			
132	筋型糖原病	1			
133	肝型糖原病	3			
134	脳髄黄色腫症	1			
135	家族性地中海熱	8			
136	慢性再発性多発性骨髄炎	3			
137	強直性脊椎炎	65			
138	肋骨異常を伴う先天性側弯症	1			
139	骨形成不全症	1			
140	軟骨無形成症	4			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	164
合計患者数(人)	6,664

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 情報通信機器を用いた診療に係る基準	・ 術後疼痛管理チーム加算
・ 医療DX推進体制整備加算	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ データ提出加算2(200床以上)
・ 歯科外来診療感染対策加算4	・ 入退院支援加算2
・ 特定機能病院入院基本料	・ 医療的ケア児(者)入院前支援加算
・ 救急医療管理加算	・ 認知症ケア加算1
・ 超急性期脳卒中加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 診療録管理体制加算3	・ 精神疾患診療体制加算
・ 医師事務作業補助体制加算1	・ 精神科急性期医師配置加算2
・ 急性期看護補助体制加算2	・ 排尿自立支援加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 療養環境加算	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 無菌治療室管理加算1・2	・ 特定集中治療室管理料2、3
・ 緩和ケア診療加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料1
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 小児入院医療管理料1
・ 摂食障害入院医療管理加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染対策向上加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 重症患者初期支援充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 呼吸ケアチーム加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ ウイルス疾患指導料	・ 外来排尿自立指導料
・ 遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・ ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ 高度難聴指導管理料	・ 肝炎インターフェロン治療計画料
・ 糖尿病合併症管理料	・ プログラム医療機器等指導管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 薬剤管理指導料
・ がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ	・ 医療機器安全管理料1
・ 外来緩和ケア管理料	・ 医療機器安全管理料2
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 精神科退院時共同指導料1
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 精神科退院時共同指導料2
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 歯科治療時総合医療管理料
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ 禁煙治療補助システム指導管理加算
・ 一般不妊治療管理料	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・ 生殖補助医療管理料1	・ 遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)
・ 二次性骨折予防継続管理料1・3	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ 下肢創傷処置管理料	・ 在宅経肛門の自己洗腸指導管理料
・ 慢性腎臓病透析予防指導管理料	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 遺伝学的検査
・ 腎代替療法指導管理料	・ 染色体検査の注2に規定する施設基準
・ 院内トリアージ実施料	・ 骨髄微小残存病変量測定
・ 救急搬送看護体制加算1	・ BRCA1/2遺伝子検査
・ 外来放射線照射診療料	・ がんゲノムプロファイリング検査
・ 外来腫瘍化学療法診療料1	・ 先天性代謝異常症検査
・ 連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・ 抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・ がん薬物療法体制充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・ ニコチン依存症管理料	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ 療養・就労両立支援指導料(相談支援加算)	・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-Cov-2核酸検出を含まないもの)
・ がん治療連携計画策定料	・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・ 検体検査管理加算(I)	・ 心臓MRI撮影加算
・ 検体検査管理加算(IV)	・ 乳房MRI撮影加算
・ 国際標準検査管理加算	・ 頭部MRI撮影加算
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 全身MRI撮影加算
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 肝エラストグラフィ加算
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 外来化学療法加算1
・ 胎児心エコー法	・ 無菌製剤処理料
・ ヘッドアップティルト試験	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・ 単線維筋電図	・ 運動器リハビリテーション料(I)
・ 光トポグラフィー	・ 呼吸器リハビリテーション料(I)
・ 脳波検査判断料1	・ がん患者リハビリテーション料
・ 神経学的検査	・ リンパ浮腫複合的治療料
・ 補聴器適合検査	・ 歯科口腔リハビリテーション料2
・ 全視野精密網膜電図	・ 経頭蓋磁気刺激療法

・ロービジョン検査判断料	・通院・在宅精神療法(療養生活環境整備指導加算)
・コンタクトレンズ検査料1	・通院・在宅精神療法(療養生活継続支援加算)
・小児食物アレルギー負荷検査	・救急患者精神科継続支援料
・内服・点滴誘発試験	・認知療法・認知行動療法1、2
・経頸静脈的肝生検	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・経気管支凍結生検法	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・医療保護入院等診療料
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	・処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
・精密触覚機能検査	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・画像診断管理加算1	・人工腎臓
・画像診断管理加算4	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・遠隔画像診断	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・CT撮影及びMRI撮影	・ストーマ合併症加算
・冠動脈CT撮影加算	・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・手術用顕微鏡加算
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
・皮膚移植術(死体)	・歯科技工士連携加算2
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・光学印象
・処理骨再建加算	・CAD/CAM冠
・緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	・歯科技工加算
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・椎間板内酵素注入療法	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・腫瘍脊椎骨全摘術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・緊急穿頭血腫除去術	・気管支バルブ留置術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・脊髄性刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)

<ul style="list-style-type: none"> 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁) 	<ul style="list-style-type: none"> 肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
<ul style="list-style-type: none"> 角結膜悪性腫瘍切除手術 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)) 	<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡下筋層切開術
<ul style="list-style-type: none"> 角膜移植術(内皮移植加算) 	<ul style="list-style-type: none"> 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 羊膜移植術 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)) 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
<ul style="list-style-type: none"> 緑内障手術(流出路再建術(眼内法))及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術) 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> 緑内障手術(濾過胞再建術(needle法)) 	<ul style="list-style-type: none"> 経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
<ul style="list-style-type: none"> 網膜再建術 	<ul style="list-style-type: none"> 経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
<ul style="list-style-type: none"> 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的僧帽弁クリップ術
<ul style="list-style-type: none"> 植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下心房中隔欠損閉鎖術
<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。) 	<ul style="list-style-type: none"> 不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)
<ul style="list-style-type: none"> 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的中等心筋焼灼術
<ul style="list-style-type: none"> 内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
<ul style="list-style-type: none"> 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術 	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
<ul style="list-style-type: none"> 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> バルーン閉塞下逆行性静脈的塞栓術 	<ul style="list-style-type: none"> 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
<ul style="list-style-type: none"> 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> 補助人工心臓
<ul style="list-style-type: none"> 体外衝撃波胆石破碎術 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的下肢動脈形成術
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下肝切除術 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
<ul style="list-style-type: none"> 移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
<ul style="list-style-type: none"> 生体部分肝移植術 	<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
<ul style="list-style-type: none"> 同種死体肝移植術 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
<ul style="list-style-type: none"> 体外衝撃波膀胱石破碎術 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下臍腫瘍摘出術及び腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精巣温存手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精巣内精子採取術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下臍中央切除術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体部分小腸移植術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 同種死体小腸移植術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡的小腸ポリープ切除術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 副腎腫瘍ラジオ波焼灼療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胎児輸血術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体外式膜型人工肺管理料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術)(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器摘出術)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 同種死体腎移植術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体腎移植術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸血管管理料 I
<ul style="list-style-type: none"> ・ 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネート体制充実加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同種クリオプレシピテート作製術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 尿道狭窄グラフト再建術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯周組織再生誘導手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工尿道括約筋植込・置換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯根端切除手術の注3
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定位放射線治療 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レーザー機器加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔管理料(Ⅰ)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像誘導密封小線源治療加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔管理料(Ⅱ)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険医療機関間の連携による病理診断 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周術期薬剤管理加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病理診断管理加算2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線治療専任加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪性腫瘍病理組織標本加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来放射線治療加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔病理診断管理加算2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高エネルギー放射線治療
<ul style="list-style-type: none"> ・ クラウン・ブリッジ維持管理料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回線量増加加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像誘導放射線治療(IGRT) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強度変調放射線治療(IMRT)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体外照射呼吸性移動対策加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護職員処遇改善評価料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高次脳機能障害の診断基準の検討とその普及啓発に関する研究	三村 将	医学部予防医療センター	5,208,000	補○委 厚生労働省
効果的な集団精神療法の施行と普及および体制構築に資する研究	藤澤 大介	医学部	9,720,000	補○委 厚生労働省
外国人患者の効果的な受入環境整備に向けた研究	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	13,500,000	補○委 厚生労働省
健康診査・保健指導における効果的な実施に資する研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	10,000,000	補○委 厚生労働省
子宮頸がん検診におけるHPV検査導入に向けた実際の運用と課題の検討のための研究	青木 大輔	医学部	10,400,000	補○委 厚生労働省
安全な血液製剤の安定供給に資する適切な採血事業体制の構築のための研究	田野崎 隆二	医学部輸血・細胞療法センター	1,200,000	補○委 厚生労働省
患者との双方向的協調に基づく先天異常症候群の自然歴の収集とrecontact可能なシステムの構築	小崎 健次郎	医学部臨床遺伝学センター	36,900,000	補○委 厚生労働省
がんのリハビリテーション、およびリンパ浮腫診療の一層の推進に資する研究	辻 哲也	リハビリテーション医学	11,349,000	補○委 厚生労働省
失語症者の社会実態を踏まえた障害認定基準の検証と失語症者の自立と社会経済活動への参加に繋がる福祉サービスについての研究	三村 将	医学部予防医療センター	4,500,000	補○委 厚生労働省
安全な血液製剤の安定供給に資する適切な採血事業体制の構築のための研究	福永 興彦	内科学(呼吸器)	1,300,000	補○委 厚生労働省
新型コロナウイルス感染症による医学・医療・健康に与えた中長期的影響の調査研究 ―今後の保健・医療体制整備の観点から―	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	13,650,000	補○委 厚生労働省
救急医療機関における訪日外国人患者の未収金の実態把握と防止策検討のための研究	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	5,824,000	補○委 厚生労働省
ニトロソアミン類の体系的リスク評価手法に基づくリスクコミュニケーションガイドラインの策定のための研究	堀口 逸子	衛生学公衆衛生学	1,000,000	補○委 厚生労働省
次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	950,000	補○委 厚生労働省
我が国における公衆衛生的観点からの健康診査の評価に資する研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	300,000	補○委 厚生労働省
関節リウマチ診療ガイドラインの改訂による医療水準の向上に関する研究	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	75,000	補○委 厚生労働省
難病に関するゲノム医療推進にあたっての統合研究	竹内 勤	内科学(リウマチ・膠原病)	4,000,000	補○委 厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	小杉 志都子	麻酔学	200,000	補○委 厚生労働省
人工内耳装用児の言語能力向上のための効果的な療育方法の確立に向けた研究	大石 直樹	耳鼻咽喉科学	600,000	補○委 厚生労働省
自己免疫性自律神経障害の全国調査、診断基準策定、国際的な総意形成	三廉 隆行	小児科学	60,000	補○委 厚生労働省
金属アレルギーの新規管理法の確立に関する研究	二木 康夫	運動器機能再建・再生学寄付研究講座	200,000	補○委 厚生労働省
『新しい生活様式』に即した熱中症予防対策の評価及び推進のための研究	林田 敬	救急医学	600,000	補○委 厚生労働省
国民代表集団のコホート研究によるウィズ・コロナ時代の健康格差・健康寿命の規定要因の解明および健康調査のオンライン化の検討:NIPPON DATA80/90/2010	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	200,000	補○委 厚生労働省
特定健康診査および特定保健指導における問診項目の妥当性検証と新たな問診項目の開発研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	250,000	補○委 厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究	長谷川 康	外科学(一般・消化器)	200,000	補○委 厚生労働省
先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の救命率の向上と生涯にわたるQOL改善のための総合的研究	山岸 敬幸	医学部予防医療センター	900,000	補○委 厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究	大石 直樹	耳鼻咽喉科学	300,000	補○委 厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	筋野 智久	医学部内視鏡センター	200,000	補○委 厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	松本 守雄	整形外科	250,000	補○委 厚生労働省

稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	高橋 勇人	皮膚科学	500,000	補○ 委	厚生労働省
成長障害・性分化疾患を伴う内分泌症候群(プラダーウイリ症候群・ヌーナン症候群を含む)の診療水準向上を目指す調査研究	石井 智弘	小児科学	300,000	補○ 委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	中原 仁	内科学(神経)	800,000	補○ 委	厚生労働省
スモンに関する調査研究	川上 途行	リハビリテーション医学	700,000	補○ 委	厚生労働省
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	大石 直樹	耳鼻咽喉科学	70,000	補○ 委	厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	佐藤 泰憲	生物統計学	400,000	補○ 委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	中村 雅也	整形外科学	250,000	補○ 委	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	遠藤 仁	内科学(循環器)	600,000	補○ 委	厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	中原 仁	内科学(神経)	400,000	補○ 委	厚生労働省
希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	浅沼 宏	泌尿器科学	200,000	補○ 委	厚生労働省
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	岩崎 栄典	内科学(消化器)	500,000	補○ 委	厚生労働省
呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上と移行期医療に関する研究	佐藤 泰憲	生物統計学	300,000	補○ 委	厚生労働省
呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上と移行期医療に関する研究	渡邊 航太	整形外科学	600,000	補○ 委	厚生労働省
前眼部難病の診療ガイドライン作成および普及・啓発の研究	平山 雅敏	眼科学	500,000	補○ 委	厚生労働省
循環器疾患及び糖尿病、COPD等の生活習慣病の個人リスク及び集団リスクの評価ツールの開発と応用のための研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	850,000	補○ 委	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	長谷川 奉延	医学部	550,000	補○ 委	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	栗原 勲	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	400,000	補○ 委	厚生労働省
医療機関における心理検査の実施実態と活用可能性に関する研究	満田 大	精神・神経科学	1,300,000	補○ 委	厚生労働省
キャッスルマン病、TAFRO症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた 国際的な総意形成を踏まえた調査研究	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	150,000	補○ 委	厚生労働省
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	秋山 光浩	内科学(リウマチ・膠原病)	500,000	補○ 委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	花岡 洋成	内科学(リウマチ・膠原病)	200,000	補○ 委	厚生労働省
健康無関心層のセグメント化と効果的介入手法の検討:ライフステージに着目して	鈴木 有佳	医療政策・管理学	300,000	補○ 委	厚生労働省
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形(リンパ管腫)・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野崎 太希	放射線科学(診断)	300,000	補○ 委	厚生労働省
ライソゾーム病、ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを含む)における早期診断・早期治療を可能とする診療提供体制の確立に関する研究	山川 裕之	医学部予防医療センター	240,000	補○ 委	厚生労働省
領域別基盤研究分野における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	山岸 敬幸	医学部予防医療センター	100,000	補○ 委	厚生労働省
職域における科学的根拠に基づくがん検診の社会実装に関する研究	青木 大輔	医学部	500,000	補○ 委	厚生労働省
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	高橋 勇人	皮膚科学	1,400,000	補○ 委	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	石井 智弘	小児科学	200,000	補○ 委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	200,000	補○ 委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	内野 裕一	眼科学	200,000	補○ 委	厚生労働省
免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤及び評価基盤の構築	足立 剛也	皮膚科学	1,000,000	補○ 委	厚生労働省
呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上と移行期医療に関する研究	藤野 明浩	外科学(小児)	600,000	補○ 委	厚生労働省

希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	藤野 明浩	外科学(小児)	1,300,000	補委○	厚生労働省
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形(リンパ管腫)・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	藤野 明浩	外科学(小児)	300,000	補委○	厚生労働省
世界精神保健調査に資する大規模疫学調査による精神疾患の有病率等を把握するための研究	立森 久照	医療システムイノベーション寄附講座	2,000,000	補委○	厚生労働省
海外における標準化を有した高品質医療リアルワールドデータ基盤整備のための調査研究	松木 絵里	内科学(血液)	850,000	補委○	厚生労働省
健康寿命延伸に備えた女性の心身の健康支援のための普及啓発に向けた研究	長島 健悟	医学部臨床研究推進センター	2,000,000	補委○	厚生労働省
指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	宮 冬樹	医学部臨床遺伝学センター	154,000	補委○	厚生労働省
ゲノム編集iPS細胞による遊走性を利用した悪性神経膠腫に対する遺伝子細胞療法の研究開発	戸田 正博	脳神経外科学	50,050,000	補委○	日本医療研究開発機構
視神経脊髄炎関連疾患に対する新規抗体医薬の探索	安井 正人	薬理学	14,836,000	補委○	日本医療研究開発機構
臨床エビデンス・宿主疾患感受性遺伝子に立脚した気道微小環境への介入による肺非結核性抗酸菌症の新規治療薬創出	南宮 湖	感染症学	19,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
大規模がんゲノム情報に基づく異常スプライシングに対する新たな創薬標的の開発	安田 浩之	内科学(呼吸器)	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
RNA標的創薬技術開発／新規RNA標的医薬品の研究開発(新規修飾siRNAと核酸デリバリーの最適化による難治性卵巣がん治療に関する研究開発)	谷口 博昭	医学部腫瘍センター	60,390,200	補委○	日本医療研究開発機構
腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発／課題2:有益細菌探索に基づく合理的に設計された新規MB制御医薬品の創出	本田 賢也	微生物学・免疫学	381,601,400	補委○	日本医療研究開発機構
国際競争力のある次世代抗体医薬品製造技術開発/次世代抗体医薬品の製造基盤技術開発(次世代抗体医薬品の開発を加速するRI標識に関する基盤技術開発とRI標識抗体医薬の実用化研究-1)	谷口 博昭	医学部腫瘍センター	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
RNA標的創薬技術開発／新規RNA標的医薬品の研究開発(疾患の原因となる変異遺伝子のみを正常遺伝子と区別して抑制するSNPD-siRNA核酸医薬品実用化のための非臨床試験基盤の確立)	谷口 博昭	医学部腫瘍センター	9,568,000	補委○	日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症における病態回避機構の解明と治療に資する層別化技術開発	岡野 栄之	生理学	68,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
ヒト前脳型コリン作動性神経細胞の選択的誘導法の開発と、薬剤評価系への応用	石井 聖二	解剖学	14,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
上皮細胞により腸管を再デザインする研究開発	杉本 真也	内科学(消化器)	14,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
エピジェネティクス修飾によるキメラ抗原受容体導入幹細胞様メモリーT細胞の自己複製増殖方法の開発	籠谷 勇紀	先端医科学研究所(がん免疫)	13,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
細胞外代謝環境スクリーニング系による高機能化オルガノイドの作製とその応用	遠山 周吾	内科学(循環器)	35,750,000	補委○	日本医療研究開発機構
ダイレクトプログラミングによる革新的心臓再生遺伝子治療の開発	家田 真樹	内科学(循環器)	65,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
新規抗体医薬の設計およびCAR-T細胞療法との融合による革新的がん免疫療法の研究開発	伊藤 雄介	先端医科学研究所(がん免疫)	17,447,300	補委○	日本医療研究開発機構
遺伝子導入神経幹細胞を用いた脊髄機能再生に関する基礎研究	岡野 栄之	生理学	69,290,000	補委○	日本医療研究開発機構
革新的RNA編集技術を用いた筋萎縮性側索硬化症の遺伝子治療開発	森本 悟	生理学	65,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
ニューロリハビリテーション療法を併用した慢性期脊髄損傷に対する細胞移植治療の開発	中村 雅也	整形外科学	119,588,300	補委○	日本医療研究開発機構
認知症、脳卒中の病態解明にむけた遺伝性脳小血管病の血液脳関門破綻機序解明	森本 悟	生理学	9,100,000	補委○	日本医療研究開発機構
患者iPS細胞由来視床下部-下垂体オルガノイドを用いたPrader-Willi症候群の病態解明およびエピゲノム編集を用いた治療戦略の構築	山田 菜未子	医学部臨床遺伝学センター	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
運動ニューロン疾患におけるシナプスを介した神経変性機構の解明	宮 冬樹	医学部臨床遺伝学センター	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経前駆細胞移植の臨床研究	中村 雅也	整形外科学	74,100,000	補委○	日本医療研究開発機構
先天性食道閉鎖症および先天性食道狭窄症の術後吻合部狭窄への自己上皮細胞シートによる小児再生治療の研究	藤野 明浩	外科学(小児)	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
iPS細胞由来角膜上皮代替細胞移植のFirst-in-human 臨床研究	平山 雅敏	眼科学	45,240,000	補委○	日本医療研究開発機構
新規モデルマウスと臨床検体を用いた卵巣癌微小残存病変に対する新規治療戦略の開発	増田 健太	産婦人科学	27,950,000	補委○	日本医療研究開発機構
消化器がん-宿主相互作用を標的とした、浸潤・転移・再発に対する新規治療開発	佐藤 俊朗	医化学	29,500,000	補委○	日本医療研究開発機構

CAR-T細胞を薬剤送達システムとして活用したがん標的治療法の開発	籠谷 勇紀	先端医科学研究所(がん免疫)	56,670,000	補委○	日本医療研究開発機構
iPS細胞技術を応用した創薬スクリーニングによる希少難治性がん治療戦略の開発	中山 タラントロバート	整形外科学	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
難治性小児がんの時空的多様性の解明と新規創薬の開発	大喜多 肇	医学部病理診断部	1,040,000	補委○	日本医療研究開発機構
HER2陽性の進行期乳房外パジェット病に対するトラスツズマブ エムタンシン治療の第II相臨床試験	船越 建	皮膚科学	49,436,010	補委○	日本医療研究開発機構
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	7,800,000	補委○	日本医療研究開発機構
単一細胞における遺伝子・蛋白質発現同時解析によるT細胞リンパ腫の病態解明	村上 紘一	内科学(血液)	10,010,000	補委○	日本医療研究開発機構
食道癌術後患者を対象とした外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究	辻 哲也	リハビリテーション医学	16,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
初発小児フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病(Ph+ALL)に対する化学療法におけるダサチニブの適正使用推進のための研究開発	嶋田 博之	小児科学	10,342,800	補委○	日本医療研究開発機構
肺癌オルガノイドライブラリーを用いた肺癌フェノタイプ多様性を規定する分子基盤解明と新規治療標的の同定	安田 浩之	内科学(呼吸器)	22,230,000	補委○	日本医療研究開発機構
早期胃癌に対するセンチネルリンパ節生検を用いた個別化、縮小手術の安全性と有効性を検証することを目的とした検証的多施設共同第3相試験	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	3,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
ゲノム編集iPS細胞由来神経幹細胞を用いた悪性神経膠腫に対する遺伝子幹細胞療法の実用化開発	戸田 正博	脳神経外科学	136,166,420	補委○	日本医療研究開発機構
CMT6による細胞内・細胞間情報伝達制御を標的とした革新的核酸医薬の創出	浅野 尚文	整形外科学	390,000	補委○	日本医療研究開発機構
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	39,000	補委○	日本医療研究開発機構
膵外分泌機能を評価する血液バイオマーカーを用いた膵がんリスク疾患・早期膵がんの診断法の臨床開発	長島 健悟	医学部臨床研究推進センター	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関わる分子基盤の探索	片岡 圭亮	内科学(血液)	4,420,000	補委○	日本医療研究開発機構
SCRUM-Japan MONSTAR-SCREENプロジェクト基盤を活用した血液循環腫瘍DNAゲノムスクリーニングに基づく相同組換え遺伝子変異を有する固形がんに対する医師主導試験	田中 伸之	泌尿器科学	4,550,000	補委○	日本医療研究開発機構
初発時慢性期および移行期小児慢性骨髄性白血病に対する第2世代チロシンキナーゼ阻害薬の適正使用に関する研究開発	嶋田 博之	小児科学	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対して、骨盤リンパ節郭清のみに比べて骨盤リンパ節に傍大動脈リンパ節郭清を加えることの優越性を検証する多施設共同臨床試験	山上 亘	産婦人科学(婦人科)	107,250	補委○	日本医療研究開発機構
進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	中山 タラントロバート	整形外科学	390,000	補委○	日本医療研究開発機構
進行直腸癌に対する導入/強化化学療法を併用した化学放射線療法後の待機療法に関する多施設ランダム化第II相試験	茂田 浩平	外科学(一般・消化器)	390,000	補委○	日本医療研究開発機構
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究	菱田 智之	外科学(呼吸器)	1,839,500	補委○	日本医療研究開発機構
子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	西尾 浩	産婦人科学(婦人科)	19,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
臨床病期I/II期非小細胞肺癌におけるリンパ節郭清の縮小化の治療的意義を検証するランダム化比較試験	菱田 智之	外科学(呼吸器)	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
がん遺伝的素因を有する小児・AYA世代の先制医療体制構築を目指したLi-Fraumeni症候群におけるがんサーベイランスの実用化のためのイメージング方法および新規バイオマーカーの開発に関する研究	山崎 文登	小児科学	520,000	補委○	日本医療研究開発機構
切除不能な肝門部領域胆管癌に対する生体肝移植	長谷川 康	外科学(一般・消化器)	325,000	補委○	日本医療研究開発機構
肺がん等の全ゲノム配列データおよび臨床情報等の収集と解析に基づく創薬等のイノベーションの創出のための基盤研究	安田 浩之	内科学(呼吸器)	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
卵巣がんに対するゲノム医療の実装と新規治療戦略構築のための全ゲノムおよびオミックス解析研究	山上 亘	産婦人科学(婦人科)	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
小児がんの全ゲノム解析等のデータ基盤の充実と診療応用に資する成果の創出	大喜多 肇	医学部病理診断部	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
造血幹細胞移植後の二次性固形癌から得られたゲノム変異による個別化医療の確立と臨床的妥当性の検証	井上 聡	先端医科学研究所(がん免疫)	0	補委○	日本医療研究開発機構
卵巣扁平上皮癌に対するペムプロリズマブ療法の有効性および安全性を評価する単群非盲検第II相試験	佐藤 泰憲	生物統計学	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
食道がん全ゲノム解析データ・臨床情報の収集・共有・患者還元・創薬開発	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	0	補委○	日本医療研究開発機構
全ゲノム情報等の高精度かつ迅速な患者還元および新たな創薬等の創出を通じた高度化がんプレジジョン医療の実践	西原 広史	医学部臨床研究推進センター	136,655,001	補委○	日本医療研究開発機構

気分障害における寛解と回復に関連した神経回路基盤の解明に資する縦断MRI研究	三村 将	医学部予防医療センター	130,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレーショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究	岡野 栄之	生理学	10,400,000	補委○	日本医療研究開発機構
精神疾患の死後脳リソース等の収集体制の確立と運用	三村 将	医学部予防医療センター	2,860,000	補委○	日本医療研究開発機構
双方向トランスレーショナルアプローチによる精神疾患の脳予測性障害機序に関する研究開発	田中 謙二	先端医科学研究所(脳科学)	14,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
認知症疾患コホートを活用したゲノム統合解析による認知症層別化と脳内病態メカニズムの解明	前田 純宏	生理学	3,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
医療情報を統合したうつ病の治療最適化に資するシステムの開発	菊地 俊暁	精神・神経科学	37,050,000	補委○	日本医療研究開発機構
治療抵抗性うつ病に対するシロシビン療法に関する研究開発	内田 裕之	精神・神経科学	8,450,000	補委○	日本医療研究開発機構
絨毛形成を標的とした腸管不全の治療開発	杉本 真也	内科学(消化器)	26,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
遺伝性疾患・神経線維腫症2型に対する革新的治療法(新規免疫療法)の開発	戸田 正博	脳神経外科学	97,593,340	補委○	日本医療研究開発機構
視覚再生遺伝子治療薬の非臨床POC取得および治験準備	栗原 俊英	眼科学	78,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
腸管を支配する自律神経のコンパートメント化による抑制的神経免疫連関に寄与する神経細胞と免疫細胞の特定と新規炎症性腸疾患治療法の開発	三上 洋平	内科学(消化器)	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
遺伝子情報に基づくトランスサイレチンアミロイドーシスの病態解明および個別化医療の実現を目的としたエビデンス創出研究	遠藤 仁	内科学(循環器)	14,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
潰瘍性大腸炎新規治療薬『インジゴ潰瘍性大腸炎カプセル(IndUC)』の治験開始に向けた開発研究	金井 隆典	内科学(消化器)	77,999,999	補委○	日本医療研究開発機構
構造異常・スプライシング異常・メチル化異常の革新的検出系による未診断疾患患者の診断率向上・診断早期特定とN-of-1創薬への導出	小崎 健次郎	医学部臨床遺伝学センター	97,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症の分子遺伝学的エビデンス創出研究	勝俣 良紀	医学部スポーツ医学総合センター	0	補委○	日本医療研究開発機構
制御性単球の分化機構解明と炎症性腸疾患に対する治療応用	金井 隆典	内科学(消化器)	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症の分子遺伝学的エビデンス創出研究	勝俣 良紀	医学部スポーツ医学総合センター	0	補委○	日本医療研究開発機構
患者レジストリを活用した脊柱靭帯骨化症の治療成績向上のための多施設臨床研究	松本 守雄	整形外科	780,000	補委○	日本医療研究開発機構
成人発症スチル病(AOSD)に対する5-アミノレブリン酸塩酸塩/クエン酸第一鉄ナトリウム(5-ALA HCL/SFC)投与の医師主導治験	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
統合レジストリを活用したキャッスルマン病・TAFRO症候群における精密医療基盤の構築を目指す実用化研究	清水 隆之	内科学(血液)	520,000	補委○	日本医療研究開発機構
HMSN-P患者由来iPS細胞を用いた治療法の開発に資するエビデンスの創出	岡野 栄之	生理学	3,250,000	補委○	日本医療研究開発機構
RFC1関連スペクトラム障害CANVASの病態解明	森本 悟	生理学	1,950,000	補委○	日本医療研究開発機構
疾患由来 iPS 細胞の提供・神経筋細胞への分化と解析	森本 悟	生理学	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
先天性および若年発症の視覚聴覚二重障害の難病に対する診療エビデンスの創出	宮 冬樹	医学部臨床遺伝学センター	520,000	補委○	日本医療研究開発機構
難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践	小崎 健次郎	医学部臨床遺伝学センター	32,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
ポドサイトDNA損傷に起因する病原性メモリーT細胞を標的にした治療法開発	林 香	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	10,400,000	補委○	日本医療研究開発機構
皮膚微生物叢と宿主の双方向理解に基づくアトピー性皮膚炎の新規治療の創出	天谷 雅行	皮膚科学	30,420,000	補委○	日本医療研究開発機構
アトピー性皮膚炎をモデルとした次世代リバーストランスレーショナル研究基盤構築に向けた研究	足立 剛也	皮膚科学	12,350,000	補委○	日本医療研究開発機構
重症喘息及び難治性好酸球性副鼻腔炎における2型自然リンパ球の分子細胞学的解析と新規治療ターゲットの創出	加畑 宏樹	内科学(呼吸器)	9,750,000	補委○	日本医療研究開発機構
高齢発症関節リウマチ患者の健康寿命延伸を目指した治療戦略の確立	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	1,040,000	補委○	日本医療研究開発機構
真菌関連アレルギー性気道疾患における真菌生態・宿主応答機序の解明と発症・増悪・重症化予防法の開発	宮田 純	内科学(呼吸器)	652,340	補委○	日本医療研究開発機構
アトピー性皮膚炎のゲノム/トランスクリプトーム解析用検体収集と付随する臨床マルチモーダル情報・サンプル収集	足立 剛也	皮膚科学	650,000	補委○	日本医療研究開発機構

AMPA受容体密度を指標とした慢性疼痛患者の痛み定量化バイオマーカー開発研究	若泉 謙太	麻酔学	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
血管内皮細胞の多様性や相互作用の解析による心血管疾患の治療法開発	楠本 大	医学部予防医療センター	9,750,000	補委○	日本医療研究開発機構
心血管疾患に対する、運動支援プログラムに関する研究開発	勝俣 良紀	医学部スポーツ医学総合センター	36,400,000	補委○	日本医療研究開発機構
宿主ゲノム・病原体ゲノムの統合解析から迫る肺非結核性抗酸菌症の病態解明	南宮 湖	感染症学	7,800,000	補委○	日本医療研究開発機構
COVID-19罹患後大規模コホート研究から得られた新規知見に基づく治療戦略創出	寺井 秀樹	医学部腫瘍センター	39,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
多層オミックス統合解析によるCOVID-19の新規病態解明と治療戦略創出	福永 興彦	内科学(呼吸器)	283,400,000	補委○	日本医療研究開発機構
新型インフルエンザ感染症に対するPoint of Care Testing型免疫動向把握・予測ツールに関する研究開発	上養 義典	臨床検査医学	8,450,000	補委○	日本医療研究開発機構
非結核性抗酸菌症のサーベイランス、ゲノム情報を基盤とする病態形成機序、薬剤耐性機構、検査・診断法の確立及び新規治療薬等の開発に資する研究	長谷川 直樹	感染症学	4,550,000	補委○	日本医療研究開発機構
思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究	岩田 卓	産婦人科学(婦人科)	195,000	補委○	日本医療研究開発機構
人工知能とゲノム創薬による肺非結核性抗酸菌症の新規治療戦略の創出	南宮 湖	感染症学	9,880,000	補委○	日本医療研究開発機構
フィリピンにおける抗酸菌症疫学的実態の解明と国際共同研究を通じたグローバルフィジシャンサイエンティストの育成基盤構築	南宮 湖	感染症学	19,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	宇野 俊介	感染症学	585,000	補委○	日本医療研究開発機構
臓器間ネットワークを介した肝線維化進展・修復機序の解明	中本 伸宏	内科学(消化器)	14,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
脂肪肝炎を背景とする代謝関連がん発生の病態解明に関する研究	眞杉 洋平	医学部病理診断部	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
NASH肝がんの治療開発を目指す炎症加齢を加味したリポド・ゲノミクス研究2.0	中本 伸宏	内科学(消化器)	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
NASH肝がんの治療開発を目指す炎症加齢を加味したリポド・ゲノミクス研究2.0	金井 弥栄	病理学	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
肝硬変症に対するリハビリテーション医療の確立、筋肉再生一肝臓修復機構の解析を通じた新たなバイオマーカーの探索	辻 哲也	リハビリテーション医学	3,250,000	補委○	日本医療研究開発機構
自律神経左右非対称が創出する脳腸関連の統合的理解と電気刺激療法研究開発	金井 隆典	内科学(消化器)	63,050,000	補委○	日本医療研究開発機構
T細胞の老化、疲弊による生体機能不全とその解除方法の開発	吉村 昭彦	微生物学・免疫学	63,440,000	補委○	日本医療研究開発機構
新しい4次元モデルシステムを用いた腸管線維化疾患の病態解明	佐藤 俊朗	医化学	61,062,099	補委○	日本医療研究開発機構
非視覚型光受容体による光マルチセンシング機構の解明と光新規治療法開発	栗原 俊英	眼科学	81,317,600	補委○	日本医療研究開発機構
時空間マルチサンプリング検体の単一細胞解析によるヒト免疫療法の基盤となる免疫記憶の解明	片岡 圭亮	内科学(血液)	71,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
皮膚の湿度受容体を介した全身の湿度ストレスセンシング制御機構の解明	竹馬 真理子	薬理学	15,300,294	補委○	日本医療研究開発機構
新生児集中治療室における精緻・迅速な遺伝子診断に関する研究開発	武内 俊樹	小児科学	45,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
卵子活性化・タイムラプス・ERAの有効性・安全性検証による生殖補助医療のエビデンス創出	山田 満稔	産婦人科学(産科)	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
新生児・乳幼児の視覚聴覚二重障害に対する遺伝学的スクリーニングの研究開発	宮 冬樹	医学部臨床遺伝学センター	390,000	補委○	日本医療研究開発機構
女性ホルモンの影響による疾病の予防・治療に資するライフコース研究	佐藤 泰憲	生物統計学	390,000	補委○	日本医療研究開発機構
性差を考慮した心不全の発症機序の解明および予防戦略の開発	白石 泰之	内科学(循環器)	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
ライフステージに応じた子宮内膜症の予防・治療のためのエビデンスの創出	井上 聡	先端医学研究所(がん免疫)	3,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
腎損傷に対する生体ハイドロゲル充填材の開発と探索的医師主導治験	八木 洋	外科学(一般・消化器)	28,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
リン酸化プルランバイオアドヒーズを用いた革新的唇顎口蓋裂治療法の開発	坂本 好昭	形成外科学	670,579	補委○	日本医療研究開発機構
リストバンド型ウェアラブルデバイスデータを用いてうつ病スクリーニングおよび重症度評価を可能とするソフトウェア医療機器の開発	岸本 泰士郎	ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座	46,700,500	補委○	日本医療研究開発機構

関節リウマチの遠隔診療に向けたIoTデジタルデバイスによる日々の生体データ活用法の確立	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	44,200,000	補委○	日本医療研究開発機構
貫通検知・自動停止機能を有するハプティック骨ドリルシステムの開発	中村 雅也	整形外科学	7,540,000	補委○	日本医療研究開発機構
脳機能再生医療を実現する診断治療パッケージのデジタル化とデータ連携による個別化治療の実現	川上 途行	リハビリテーション医学	55,394,001	補委○	日本医療研究開発機構
診断・治療適用のための光超音波3Dイメージングによる革新的画像診断装置の開発	貴志 和生	形成外科学	66,768,000	補委○	日本医療研究開発機構
実態/ニーズ調査に基づいたヘルスケアサービス利用者・事業者も使用可能な認知症発症リスクおよび認知障害・生活機能障害・BPSD等の低減のための非薬物療法指針作成と普及のための研究	文 鐘玉	精神・神経科学	1,950,000	補委○	日本医療研究開発機構
デジタル技術を活用した生涯にわたる血压管理に関する指針の研究開発	伊藤 裕	医学部予防医療センター	390,000	補委○	日本医療研究開発機構
生活習慣病予防のための行動変容を評価する包括的な社会心理行動指標に関する研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
システマティックレビュー	飯田 美穂	衛生学公衆衛生学	350,000	補委○	日本医療研究開発機構
働く女性の健康づくりに資するヘルスケアサービスと社会実装～多面的価値評価に関する研究～	立森 久照	医療システムイノベーション寄附講座	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
マルチセンシング技術を用いた介護現場のアセスメントおよび個別ケア支援に関わる研究開発	宮田 裕章	医療政策・管理学	3,850,000	補委○	日本医療研究開発機構
キレート材Liによる画期的腸上Li剥離システム開発とその医療応用	佐藤 俊朗	医化学	3,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
心房中隔欠損症を心電図から検出する人工知能の開発および社会実装	勝俣 良紀	医学部スポーツ医学総合センター	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
日本人SNPを利用したドナー由来Cell free DNA測定(リキッドバイオプシー)による臓器移植後グラフト障害診断法の確立	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	9,750,000	補委○	日本医療研究開発機構
日・リトニアにおける遺伝性乳癌の遺伝学的特徴の比較検討及び乳房MRIによる早期乳癌の検出能に関する研究	林田 哲	外科学(一般・消化器)	325,000	補委○	日本医療研究開発機構
ピロリ菌関連胃癌を制御する食習慣と胃内環境の特定に向けた国際臨床研究	森 英毅	内科学(消化器)	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
免疫担当細胞eQTL データを用いた免疫介在性疾患ゲノム情報からの層別化および予後予測モデルの構築	竹下 勝	内科学(リウマチ・膠原病)	390,000	補委○	日本医療研究開発機構
ゲノム医療実現推進のためのバイオバンク・ネットワーク構築とバイオバンク利活用促進に関する研究開発	西原 広史	医学部臨床研究推進センター	3,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
KIT遺伝子変異のある進行期悪性黒色腫に対するKIT阻害薬、抗PD-1抗体併用療法の第I/II相臨床試験	船越 建	皮膚科学	24,661,000	補委○	日本医療研究開発機構
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	山上 亘	産婦人科学(婦人科)	2,340,000	補委○	日本医療研究開発機構
静脈奇形に対するモノエタノールアミノレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性及び安全性を評価する医師主導治験	荒牧 典子	形成外科学	1,762,800	補委○	日本医療研究開発機構
リンパ管奇形に対する越婢加朮湯の効果を評価する臨床研究	藤野 明浩	外科学(小児)	260,000	補委○	日本医療研究開発機構
健康寿命伸長にむけた腸内細菌動作原理の理解とその応用	本田 賢也	微生物学・免疫学	203,305,700	補委○	日本医療研究開発機構
炎症性誘発細胞除去による100歳を目指した健康寿命延伸医療の実現	吉村 昭彦	微生物学・免疫学	35,100,000	補委○	日本医療研究開発機構
再生医療等安全性確保法に従い実施される再生医療等臨床研究および再生医療等製品等の開発を目指す医師主導治験等を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの実現	岡野 栄之	生理学	5,980,000	補委○	日本医療研究開発機構
バイオバンクの利活用促進に向けた高品質な管理・運営体制の構築	西原 広史	医学部臨床研究推進センター	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
RNA標的医薬創出に資する、疾患RNA分子完全長一次構造に関するデータ基盤の構築	森本 悟	生理学	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)): 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	小崎 健次郎	医学部臨床遺伝学センター	141,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
抗体基盤網羅的スクリーニングによる消化器がん早期診断バイオマーカーの開発	長島 健悟	医学部臨床研究推進センター	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
新型コロナウイルス感染症後遺症の病態生理の多分野融合による解明	南宮 湖	感染症学	5,850,000	補委○	日本医療研究開発機構
21水酸化酵素欠損症の新たな小児期先制医療を目指した患者レジストリ構築、治療マーカーおよび簡便な遺伝学的検査法の確立	長谷川 奉延	医学部	780,000	補委○	日本医療研究開発機構
患者層別化マーカー探索技術の開発/がん免疫モニタリングによる患者層別化を行う基盤技術の開発	金井 弥栄	病理学	15,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
miRNA網羅的解析により得られた神経障害性疼痛バイオマーカーの有用性に関する研究開発	中村 雅也	整形外科学	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構

チャットボットの効果予測因子に関する研究	菊地 俊暁	精神・神経科学	1,560,000	補委○	日本医療研究開発機構
遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの革新的治療を最適化する病態評価法	遠藤 仁	内科学(循環器)	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
大規模前向きコホートデータを基盤とした認知症のゲノム・脳画像研究	三村 將	医学部予防医療センター	13,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
脳腸関連ネットワークの統合的理解による炎症性腸疾患病態の新規治療法に関する研究開発	寺谷 俊昭	先進炎症性腸疾患治療開発教育学寄付研究講座	13,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
脂肪肝関連疾患にともなう動脈硬化性心血管疾患の二次・三次予防に資するヘルスケアサービスの指針策定およびシステム開発に関する研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	1,040,000	補委○	日本医療研究開発機構
早期関節リウマチの滑膜と末梢血情報による予後予測モデルの構築	竹下 勝	内科学(リウマチ・膠原病)	130,000	補委○	日本医療研究開発機構
アレルギー関連パスウェイの遺伝子解析を通じた重症アレルギー疾患の病態解明	足立 剛也	皮膚科学	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
希少難病に対するN-of-1+核酸医薬創薬研究	小崎 健次郎	医学部臨床遺伝学センター	3,900,000	補委○	日本医療研究開発機構
非翻訳領域リピート病のiPS細胞を用いた病態解明研究	森本 悟	生理学	3,250,000	補委○	日本医療研究開発機構
慢性炎症の制御によるがん発症ゼロ社会の実現	籠谷 勇紀	先端医科学研究所(がん免疫)	9,750,000	補委○	日本医療研究開発機構
カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌に対する簡易迅速遺伝子診断キット開発に関する研究	三木田 馨	感染症学	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
将来の認知機能予測に基づくテラーメイド行動変容プログラム開発	三村 將	医学部予防医療センター	39,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
大規模疾患コホート・アカデミア連携を基盤とするオミックス解析・サーベイランス体制の整備による新興感染症重症化リスク因子の探索	福永 興壱	内科学(呼吸器)	281,496,800	補委○	日本医療研究開発機構
循環器疾患におけるヘルスケアサービスの有効性に関するエビデンスの整理と指針作成	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	325,000	補委○	日本医療研究開発機構
バイオヒステリシスを考慮した難治性感染症の治療抵抗性要因の解明と普遍的効果を示す次世代型抗菌薬創薬への応用	南宮 湖	感染症学	2,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
抗IFN γ 中和自己抗体の疫学調査・バイオリソース基盤構築	南宮 湖	感染症学	1,300,000	補委○	日本医療研究開発機構
末梢気道病変に着目した肺NTM症の新たな治療標的の創出	長谷川 直樹	感染症学	7,475,000	補委○	日本医療研究開発機構
新たな重症呼吸器症候群をきたす感染症に備えた気道部位特異的上皮細胞における分子基盤の創出	南宮 湖	感染症学	5,200,000	補委○	日本医療研究開発機構
視覚障害者における就労支援のニーズ実態調査と日本版リエゾンシステム導入の有効性の検証及び開発	栗原 俊英	眼科学	9,100,000	補委○	日本医療研究開発機構
患者からのオミックス解析用検体収集と付随する臨床マルチモーダル情報・サンプル収集	天谷 雅行	皮膚科学	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
既存大規模コホートを用いたラジオゲノミクスによるLong COVID/COVID-19の創薬ターゲット創出	南宮 湖	感染症学	13,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
バイオバンクを活用したT細胞受容体配列情報に基づく関節リウマチの新規診断マーカーの同定	川口 英明	微生物学・免疫学	650,000	補委○	日本医療研究開発機構
全ゲノムデータ基盤新規作用機序抗精神病薬探索プラットフォームの開発	岡野 栄之	生理学	6,500,000	補委○	日本医療研究開発機構
ICD-11伝統医学の病態－モジュールIの活用と、安全で有効な漢方治療実践のための基盤整備研究	吉野 鉄大	全人的漢方診断共同研究講座	243,100	補委○	日本医療研究開発機構
全ゲノム解析症例のWSIおよび病理報告書等の病理データ収集体制の構築	西原 広史	医学部臨床研究推進センター	5,545,000	補委○	日本医療研究開発機構
産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出	岡野 栄之	生理学	394,323,209	補委○	日本医療研究開発機構
慢性疼痛診療システム均てん化等事業	小杉 志都子	麻酔学	2,400,000	補委○	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症による医学・医療・健康に与えた中長期的影響の調査研究 ー今後の保健・医療体制整備の観点からー	福永 興壱	内科学(呼吸器)	17,516,000	補委○	厚生労働省
ゲノム情報を用いた一次・二次予防のための技術開発と連携研究基盤の構築と運用	武林 亨	衛生学公衆衛生学	500,000	補委○	国立がん研究センター
がん患者の社会経済状況に関する医療経済学的検討	吉岡 貴史	衛生学公衆衛生学	250,000	補委○	国立がん研究センター
多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究	三村 將	医学部予防医療センター	8,000,000	補委○	国立がん研究センター
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	松田 諭	外科学(一般・消化器)	500,000	補委○	国立がん研究センター

FALD (Fontan術後肝臓合併症)の疫学調査・レジストリ拡充と病態解明に基づく診療ガイドライン作成に資する研究	大喜多 肇	医学部病理診断部	2,400,000	補委○	国立国際医療研究センター
小児リンパ管疾患に対する複合的臨床及び基礎研究	藤野 明浩	外科学(小児)	450,000	補委○	国立成育医療研究センター
子宮内細菌叢を育てる:不妊・不育～胎児期から始まる生活習慣病リスクの改善法の探索	山田 満稔	産婦人科学(産科)	492,000	補委○	国立成育医療研究センター
子宮内細菌叢を育てる:不妊・不育～胎児期から始まる生活習慣病リスクの改善法の探索	笹部 潤平	薬理学	400,000	補委○	国立成育医療研究センター
臨床ゲノム情報公開データベース(MGeND)キュレーション業務	小崎 健次郎	医学部臨床遺伝学センター	32,000,000	補委○	厚生労働省
食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	300,000	補委○	厚生労働省
NCNPブレインバンクの運営およびブレインバンク生前登録システムの推進	三村 将	医学部予防医療センター	1,000,000	補委○	国立精神・神経医療研究センター
医薬品及び医療機器の費用対効果評価における公的分析	武林 亨	衛生学公衆衛生学	149,932,134	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業	中村 雅也	整形外科学	49,400,000	補委○	日本医療研究開発機構
基礎・臨床一体型の持続可能な橋渡し研究支援拠点形成	長谷川 奉延	医学部	102,600,000	補委○	日本医療研究開発機構
多様な異分野研究の萌芽発掘から革新的医療シーズへの進化を導く持続的開発推進	長谷川 奉延	医学部	49,830,000	補委○	日本医療研究開発機構
リアルワールドデータを用いた医薬品・医療機器・再生医療等製品等の承認申請を促進するために、AROに求められる体制整備の検討	松木 絵里	内科学(血液)	2,080,000	補委○	日本医療研究開発機構
iPS細胞由来グリオジェニック神経前駆細胞を用いた慢性期脊髄損傷に対する細胞移植療法の研究開発	名越 慈人	整形外科学	64,999,000	補委○	日本医療研究開発機構
高速液体クロマトグラフィーによるDNAメチル化率測定に基づく上部尿路がんの非侵襲的診断実用化	金井 弥栄	病理学	12,700,000	補委○	日本医療研究開発機構
サイトカイン放出症候群抑制と治療効果増強を同時に達成する人工サイトカイン受容体を搭載したCAR-T細胞療法の開発	籠谷 勇紀	医学部	12,100,000	補委○	日本医療研究開発機構
東日本におけるiPS細胞等臨床研究推進モデル病院の構築	中村 雅也	整形外科学	65,000,000	補委○	日本医療研究開発機構
世界最先端の革新的医療技術の研究開発を最速で進めるための中核的機能強化事業	長谷川 奉延	医学部	170,726,000	補委○	日本医療研究開発機構
臨床研究総合促進事業	長谷川 奉延	医学部	15,997,000	補委○	厚生労働省

計271件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Inaishi J, Kashiwagi K, Kinoshita S et al.	予防医療センター	Associations between glycemic variability, sleep quality, and daily steps in subjects without diabetes using wearable devices	Metabol Open. 2023 Nov 17:20: 100263. (オンライン)	Original Article
2	Uchino Y, Uchino M, Mizuno M et al.	眼科学	Morphological alterations in corneal nerves of patients with dry eye and associated biomarkers	Exp Eye Res. 2023 May:230: 109438.	Original Article
3	Takaoka S, Wakaizumi K, Tanaka C et al.	麻酔学	Decreased Interoceptive Awareness as a Risk Factor for Moderate to Severe Pain in Japanese Full-Time Workers: A Longitudinal Cohort Study	J Clin Med. 2023 Apr 16;12(8): 2896. (オンライン)	Original Article
4	Inohara T, Otsuka T, Watanabe Y et al.	内科学(循環器)	Rationale and design of Non-antithrombotic Therapy After Transcatheter Aortic Valve Implantation (NAPT) Trial	Contemp Clin Trials. 2023 Nov:134: 107358.	Original Article
5	Niimi N, Kohsaka S, Shiraishi Y et al.	内科学(循環器)	Which congestion presentation pattern on the physical findings is associated with future adverse events? A cluster analysis in the multicenter acute heart failure registry	Clin Res Cardiol. 2023 Aug;112(8): 1108-1118.	Original Article
6	Shiraishi Y, Ikemura N, Urashima M et al.	内科学(循環器)	Rationale and protocol of the LAQUA-HF trial: a factorial randomised controlled trial evaluating the effects of neurohormonal and diuretic agents on health-status reported outcomes in heart failure patients	BMJ Open. 2024 Feb 14;14(2): e076519. (オンライン)	Original Article
7	Nakamaru R, Ikemura N, Kimura T et al.	内科学(循環器)	Discontinuation of Oral Anticoagulants in Atrial Fibrillation Patients: Impact of Treatment Strategy and on Patients' Health Status	J Clin Med. 2023 Dec 15;12(24): 7712. (オンライン)	Original Article
8	Iwata J, Inohara T, Shiraishi Y et al.	内科学(循環器)	Standard modifiable cardiovascular risk factors in patients with acute coronary syndrome: A report from multicenter percutaneous coronary intervention registry	J Cardiol. 2023 Jun;81(6): 571-576.	Original Article
9	Miyama H, Katsumata Y, Momoi M et al.	内科学(循環器)	Genetic Testing Enables the Diagnosis of Familial Hypercholesterolemia Underdiagnosed by Clinical Criteria: Analysis of Japanese Early-Onset Coronary Artery Disease Patients	Cardiol Res Pract. 2023 Apr 28:2023: 2236422. (オンライン)	Original Article
10	Inohara T, Tabata M, Isotani A et al.	内科学(循環器)	Appropriate Use Criteria for the Management of Aortic Stenosis: Insight From the Japanese Expert Panel	JACC Asia. 2023 Apr 18;3(2): 255-267. (オンライン)	Original Article
11	Shoji S, Kuno T, Malik A et al.	内科学(循環器)	Association between institutional volume of transcatheter mitral valve repair and readmission rates: A report from the Nationwide Readmission Database	Int J Cardiol. 2023 Jul 15:383: 70-74.	Original Article
12	Miura K, Yagi R, Miyama H et al.	内科学(循環器)	Deep learning-based model detects atrial septal defects from electrocardiography: a cross-sectional multicenter hospital-based study	EClinicalMedicine. 2023 Aug 17:63: 102141. (オンライン)	Original Article
13	Ikemura N, Kohsaka S, Kimura T et al.	内科学(循環器)	Physician Estimates and Patient-Reported Health Status in Atrial Fibrillation	JAMA Netw Open. 2024 Feb 5;7(2): e2356693. (オンライン)	Original Article

14	Ikemura N, Spertus JA, Nguyen DD et al.	内科学(循環器)	Baseline Health Status and its Association With Subsequent Cardiovascular Events in Patients With Atrial Fibrillation	JACC Clin Electrophysiol. 2023 Sep;9(9):1934-1944.	Original Article
15	Ohata T, Niimi N, Shiraishi Y et al.	内科学(循環器)	Initiation and Up-Titration of Guideline-Based Medications in Hospitalized Acute Heart Failure Patients - A Report From the West Tokyo Heart Failure Registry	Circ J. 2023 Dec 25;88(1):22-30.	Original Article
16	Yamamoto R, Yoshizawa J, Takauji S et al.	救急医学	Hyperoxia for accidental hypothermia and increased mortality: a post-hoc analysis of a multicenter prospective observational study	Crit Care. 2023 Apr 1;27(1):131. (オンライン)	Original Article
17	Yamamoto R, Yamakawa K, Endo A et al.	救急医学	Early restricted oxygen therapy after resuscitation from cardiac arrest (ER-OXYTRAC): protocol for a stepped-wedge cluster randomised controlled trial	BMJ Open. 2023 Sep 15;13(9):e074475. (オンライン)	Original Article
18	Matsumura K, Yamamoto R, Namiki J et al.	救急医学	Cushing Index Based on Cushing Signs to Predict In-Hospital Death and Early Intervention for Minor Head Injury	J Neurotrauma. 2023 Oct;40(19-20):2110-2117.	Original Article
19	Yamamoto R, Fujishima S, Yamakawa K et al.	救急医学	Hyperoxia for sepsis and development of acute lung injury with increased mortality	BMJ Open Respir Res. 2023 Dec 14;10(1):e001968. (オンライン)	Original Article
20	Yamamoto R, Yamamoto A, Masaoka T et al.	救急医学	Early symptoms preceding post-infectious irritable bowel syndrome following COVID-19: a retrospective observational study incorporating daily gastrointestinal symptoms	BMC Gastroenterol. 2023 Apr 5;23(1):108. (オンライン)	Original Article
21	Yamamoto R, Tamura T, Haiden A et al.	救急医学	Frailty and Neurologic Outcomes of Patients Resuscitated From Nontraumatic Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Prospective Observational Study	Ann Emerg Med. 2023 Jul;82(1):84-93.	Original Article
22	Yamamoto R, Kuramoto S, Shimizu M et al.	救急医学	Optimal tentative abdominal closure for open abdomen: a multicenter retrospective observational study (OPTITAC study)	Int J Surg. 2023 Dec 1;109(12):4049-4056. (オンライン)	Original Article
23	Matsuoka T, Fujishima S, Sasaki J et al.	救急医学	COAGULOPATHY PARAMETERS PREDICTIVE OF OUTCOMES IN SEPSIS-INDUCED ACUTE RESPIRATORY DISTRESS SYNDROME: A SUBANALYSIS OF THE TWO PROSPECTIVE MULTICENTER COHORT STUDIES	Shock. 2024 Jan 1;61(1):89-96.	Original Article
24	Mitsuno R, Uchiyama K, Nakayama T et al.	内科学(腎・内・代)	Comparison of the effects of angiotensin receptor-neprilysin inhibitors and thiazide diuretic/renin-angiotensin system inhibitor combination therapy in hypertensive patients: a retrospective cohort study	J Hum Hypertens. 2023 Dec;37(12):1049-1055.	Original Article
25	Takahashi R, Maruki T, Uchiyama K et al.	内科学(腎・内・代)	Seasonal variation in predialysis systolic blood pressure and cardiovascular events in patients on maintenance hemodialysis	Hypertens Res. 2023 Sep;46(9):2192-2202.	Original Article
26	Aoyama K, Nakajima Y, Meguro S et al.	内科学(腎・内・代)	Efficacy and safety of a telemedicine system in subjects with gestational diabetes mellitus (TELEGLAM): Study protocol for a randomized controlled trial	Heliyon. 2023 Nov 18;9(11):e22504. (オンライン)	Original Article
27	Tonomura S, Uchiyama K, Nakayama T et al.	内科学(腎・内・代)	Clinical significance of serum urea-to-creatinine ratio in patients undergoing peritoneal dialysis	Ther Apher Dial. 2023 Dec;27(6):1103-1112.	Original Article
28	Takahashi R, Uchiyama K, Washida N et al.	内科学(腎・内・代)	Mean annual intradialytic blood pressure decline and cardiovascular events in Japanese patients on maintenance hemodialysis	Hypertens Res. 2023 Jun;46(6):1536-1546.	Original Article
29	Kojima D, Washida N, Uchiyama K et al.	内科学(腎・内・代)	The body mass index change is associated with death or hemodialysis transfer in Japanese patients initiating peritoneal dialysis	Ren Fail. 2023 Dec;45(1):2163904.	Original Article

30	Uno S, Goto R, Honda K et al.	感染症学	Healthcare costs for hospitalized COVID-19 patients in a Japanese university hospital: a cross-sectional study	Cost Eff Resour Alloc. 2023 Jul 16;21(1):43. (オンライン)	Original Article
31	Uno S, Gatanaga H, Hayashida T et al.	感染症学	Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism: a multicentre retrospective study	J Antimicrob Chemother. 2023 Dec 1;78(12):2859-2868.	Original Article
32	Iwata S, Hanada S, Takata M et al.	感染症学	Risk factors and pathogen characteristics associated with unfavorable outcomes among adults with pneumococcal meningitis in Japan, 2006 to 2016	J Infect Chemother. 2023 Jul;29(7):637-645.	Original Article
33	Saito A, Terai H, Kim TJ et al.	内科学(呼吸器)	Clinical utility of the Oncomine Dx Target Test multi-CDx system and the possibility of utilizing those original sequence data	Cancer Med. 2024 Feb;13(4):e7077.	Original Article
34	Tanaka K, Meguro S, Itoh A et al.	内科学(腎・内・代)	Impact of coronavirus disease 2019 in seasonal variation of hemoglobin A1c in adults with type 1 diabetes and the effect of the mode of treatment: a single-center retrospective study for 2019 and 2021 and analysis by the mode of treatment	Endocr J. 2023 Aug 28;70(8):787-795.	Original Article
35	Kasuga R, Chu PS, Taniki N et al.	内科学(消化器)	Granulocyte-monocyte/macrophage apheresis for steroid-nonresponsive or steroid-intolerant severe alcohol-associated hepatitis: A pilot study	Hepatol Commun. 2024 Jan 29;8(2):e0371. (オンライン)	Original Article
36	Okada M, Ishida N, Kanzaki S et al.	内科学(呼吸器)	Upper Respiratory Symptoms as Long COVID: Insight from a Multicenter Cohort Study	OTO Open. 2024 Mar 3;8(1):e120. (オンライン)	Original Article
37	Ohtani S, Watanabe N, Ihara K et al.	内科学(神経)	Real-world evidence of fremanezumab for treating migraine in Japan: a retrospective study	BMC Neurol. 2023 Nov 14;23(1):404. (オンライン)	Original Article
38	Ihara K, Ohtani S, Watanabe N et al.	内科学(神経)	Switching between anti-calcitonin gene-related peptide monoclonal antibodies: A comparison of monthly and quarterly dosing	J Neurol Sci. 2023 Oct 15:453:120811.	Original Article
39	Takizawa T, Kitano T, Iijima M et al.	内科学(神経)	Treatment patterns and characteristics of patients with migraine: results from a retrospective database study in Japan	J Headache Pain. 2024 Feb 8;25(1):19. (オンライン)	Original Article
40	Seki M, Kawata Y, Hayashi A et al.	内科学(神経)	Prescribing patterns and determinants for elderly patients with Parkinson's disease in Japan: a retrospective observational study using insurance claims databases	Front Neurol. 2023 Jun 23:14:1162016. (オンライン)	Original Article
41	Motegi H, Kufukihara K, Kitagawa S et al.	内科学(神経)	Non-lesional white matter changes depicted by q-space diffusional MRI correlate with clinical disabilities in multiple sclerosis	J Neurol Sci. 2024 Jan 15:456:122851.	Original Article
42	Kudo S, Uchida T, Nishida H et al.	精神・神経科学	Clinical characteristics and potential association to Parkinson's disease and dementia with Lewy bodies in patients with major depressive disorder who received maintenance electroconvulsive therapy: a retrospective chart review study	BMC Psychiatry. 2023 Apr 11;23(1):243. (オンライン)	Original Article
43	Bun S, Ito D, Tezuka T et al.	精神・神経科学	Performance of plasma A β 42/40, measured using a fully automated immunoassay, across a broad patient population in identifying amyloid status	Alzheimers Res Ther. 2023 Sep 4;15(1):149. (オンライン)	Original Article
44	Nagaoka M, Koreki A, Kosugi T et al.	精神・神経科学	Economic Evaluation Alongside a Randomized Controlled Trial of Mindfulness-Based Cognitive Therapy in Healthy Adults	Psychol Res Behav Manag. 2023 Jul 20:16:2767-2785. (オンライン)	Original Article

45	Noda Y, Fuji K, Tokura F et al.	精神・神経科学	A Case Series of Continuous Theta Burst Stimulation Treatment for the Supplementary Motor Area Twice a Day in Patients with Obsessive-Compulsive Disorder: A Real World TMS Registry Study in Japan	J Pers Med. 2023 May 22;13(5): 875. (オンライン)	Case report
46	Momota Y, Liang KC, Horigome T et al.	精神・神経科学	Language patterns in Japanese patients with Alzheimer disease: A machine learning approach	Psychiatry Clin Neurosci. 2023 May;77(5): 273-281.	Original Article
47	Bun S, Suzuki K, Niimura H et al.	精神・神経科学	Gender and age influence the association between gait speed and mild cognitive impairment in community-dwelling Japanese older adults: from the Japan Prospective Studies Collaboration for Ageing and Dementia (JPSC-AD)	Psychogeriatrics. 2023 Nov;23(6): 918-929.	Original Article
48	Yonezawa K, Uchida H, Yatomi T et al.	精神・神経科学	Factors Associated with Antidepressant Effects of Ketamine: A Reanalysis of Double-Blind Randomized Placebo-Controlled Trial of Intravenous Ketamine for Treatment-Resistant Depression	Pharmacopsychiatry. 2024 Jan;57(1):35-40.	Original Article
49	Ohtani Y, Asano K, Ueno F et al.	精神・神経科学	New-onset addictions in patients with alcohol dependence: A cross-sectional study	Drug Alcohol Depend. 2023 Nov 1;252: 110966.	Original Article
50	Okimura T, Maeda T, Mimura M et al.	精神・神経科学	Aberrant sense of agency induced by delayed prediction signals in schizophrenia: a computational modeling study	Schizophrenia (Heidelb). 2023 Oct 16;9(1):72. (オンライン)	Original Article
51	Ogyu K, Mashima Y, Nishi A et al.	精神・神経科学	Intravenous pulse methylprednisolone and corticosteroid-induced psychiatric disorders: A retrospective study	J Psychosom Res. 2023 Apr;167:111179.	Original Article
52	Tsugawa S, Honda S, Noda Y et al.	精神・神経科学	Associations Between Structural Covariance Network and Antipsychotic Treatment Response in Schizophrenia	Schizophr Bull. 2024 Mar 7;50(2): 382-392.	Original Article
53	Kurokawa S, Nomura K, Hosogane N et al.	精神・神経科学	Reliability of Telepsychiatry Assessments Using the Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder Rating Scale-IV for Children With Neurodevelopmental Disorders and Their Caregivers: Randomized Feasibility Study	J Med Internet Res. 2024 Feb 19;26: e51749. (オンライン)	Original Article
54	Katayama N, Nakagawa A, Umeda S et al.	精神・神経科学	Functional connectivity changes between frontopolar cortex and nucleus accumbens following cognitive behavioral therapy in major depression: A randomized clinical trial	Psychiatry Res Neuroimaging. 2023 Jul;332:111643.	Original Article
55	Takahashi S, Katsumata M, Nogawa H et al.	脳神経外科学	A Case of Symptomatic Intraluminal Internal Carotid Artery Thrombus in a Patient with Essential Thrombocythemia Surgically Treated by CEA	Case Rep Neurol Med. 2023 Nov 24;2023: 9152009. (オンライン)	Case report
56	Oishi M, Kasuga Y, Fukuma Y et al.	産婦人科学	Obstetric outcomes after medroxyprogesterone acetate treatment for early stage endometrial cancer or atypical endometrial hyperplasia: a single hospital-based study	Int J Clin Oncol. 2023 Apr;28(4): 587-591.	Original Article
57	Sasaki M, Yuki K, Hanyuda A et al.	眼科学	Associations between fatty acid intake and diabetic retinopathy in a Japanese population	Sci Rep. 2023 Aug 9;13(1): 12903.	Original Article
58	Negishi K, Masui S, Ayaki M et al.	眼科学	Clinical Results and Factors Affecting Visual Function in Eyes Implanted with an Enhanced Monofocal Intraocular Lens	Clin Ophthalmol. 2023 Dec 21;17: 3965-3973.	Original Article
59	Ayaki M, Negishi K	眼科学	Seasonality of Tear Meniscus Volume and Dry Eye-Related Symptoms - A Cross-Sectional Retrospective Cohort Study	Clin Ophthalmol. 2023 Dec 12;17: 3809-3816.	Original Article

60	Ayaki M, Kuze M, Negishi K	眼科学	Association of eye strain with dry eye and retinal thickness	PLoS One. 2023 Oct 20;18(10): e0293320.	Original Article
61	Momohara S, Ikeda K, Tada M et al.	整形外科科学	Patient-Physician Communication and Perception of Treatment Goals in Rheumatoid Arthritis: An Online Survey of Patients and Physicians	Rheumatol Ther. 2023 Aug;10(4): 917-931.	Original Article
62	Okubo T, Suzuki S, Ozaki M et al.	整形外科科学	Influence of thoracolumbar kyphosis on postoperative spinal alignment in patients with Lenke type 5C adolescent idiopathic scoliosis	Spine Deform. 2024 Mar;12(2): 411-422.	Original Article
63	Isogai N, Yagi M, Otomo N et al.	整形外科科学	Upper End Vertebra of Proximal Thoracic Curve At T1 is a Novel Risk Factor of Postoperative Shoulder Imbalance in Lenke Type 2 Adolescent Idiopathic Scoliosis	Global Spine J. 2023 Jun;13(5): 1223-1229.	Original Article
64	Nakamura H, Iwamoto T, Kimura H et al.	整形外科科学	A case of neuropathic arthropathy of the elbow with early loosening after total elbow arthroplasty	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Jun 19;7(2): 480-482.	Case report
65	Fujii T, Daimon K, Ozaki M et al.	整形外科科学	10-year Longitudinal MRI Study of Intervertebral Disk Degeneration in Patients With Lumbar Spinal Canal Stenosis After Posterior Lumbar Decompression Surgery	Spine (Phila Pa 1976). 2023 Jun 15;48(12): 815-824.	Original Article
66	Nagoshi N, Yoshii T, Egawa S et al.	整形外科科学	Comparison of Surgical Outcomes of Anterior and Posterior Fusion Surgeries for K-line (-) Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Prospective Multicenter Study	Spine (Phila Pa 1976). 2023 Jul 1;48(13): 937-943.	Original Article
67	Sasaki R, Kaneda K, Yamada Y et al.	整形外科科学	Extra-articular location of the three-dimensional mechanical axis in advanced knee osteoarthritis: an upright computed tomography study	Jpn J Radiol. 2023 Dec;41(12): 1405-1413.	Original Article
68	Maeda Y, Nagura T, Nakamura M et al.	整形外科科学	Automatic measurement of the Cobb angle for adolescent idiopathic scoliosis using convolutional neural network	Sci Rep. 2023 Sep 4;13(1): 14576. (オンライン)	Original Article
69	Yoshida Y, Matsumura N, Yamada Y et al.	整形外科科学	Dynamic evaluation of the sternoclavicular and acromioclavicular joints using an upright four-dimensional computed tomography	J Biomech. 2023 Aug;157: 111697.	Original Article
70	Kasahara K, Kono T, Sato Y et al.	整形外科科学	Sarcopenia accompanied by systemic inflammation can predict clinical outcomes in patients with head and neck cancer undergoing curative therapy	Front Oncol. 2024 Mar 14;14: 1378762. (オンライン)	Original Article
71	Idei K, Kitamura M, Shimanuki MN et al.	耳鼻咽喉科学	Effective cochlear implantation for idiopathic hypertrophic pachymeningitis with bilateral profound hearing loss: A case report	Medicine (Baltimore). 2023 Nov 24;102(47): e36124.	Case report
72	Yamada Y, Mori T, Takahashi N et al.	外科学(小児)	Historical Cohort Study of Congenital Isolated Hypoganglionosis of the Intestine: Determining the Best Surgical Interventions	Biomolecules. 2023 Oct 23;13(10): 1560. (オンライン)	Original Article
73	Takahashi N, Kato M, Yamada Y et al.	外科学(小児)	Abnormal distribution of fat tissue and its association with intestinal failure-associated liver disease in children and adolescents with long-time parenteral nutrition support: A case-control study	JPEN J Parenter Enteral Nutr. 2023 Sep;47(7): 938-946.	Original Article
74	Kanamori H, Yamada Y, Ito Y et al.	外科学(小児)	Noninvasive graft monitoring using donor-derived cell-free DNA in Japanese liver transplantation	Hepatology Res. 2024 Mar;54(3): 300-314.	Original Article
75	Oikawa H, Morooka Y, Furuichi M et al.	小児科学	Catheter-associated urinary tract infection and urinary tract abnormalities in young children: A retrospective study	J Infect Chemother. 2024 Mar;30(3): 194-200.	Original Article
76	Amano N, Narumi S, Aizu K et al.	小児科学	Single-Exon Deletions of ZNRF3 Exon 2 Cause Congenital Adrenal Hypoplasia	J Clin Endocrinol Metab. 2024 Feb 20;109(3): 641-648.	Original Article

77	Morimoto S, Takahashi S, Ito D et al.	生理学教室	Phase 1/2a clinical trial in ALS with ropinirole, a drug candidate identified by iPSC drug discovery	Cell Stem Cell. 2023 Jun 1;30(6):766-780.e9.	Original Article
78	Suzuki Y, Kajita H, Watanabe S et al.	形成外科学	Preoperative photoacoustic versus indocyanine green lymphography in lymphaticovenular anastomosis outcomes for lower extremity lymphedema: A pilot study	Microsurgery. 2024 Mar;44(3):e31153.	Original Article
79	Nakahara T, Iwabuchi Y, Miyazawa R et al.	放射線科学	Assessment of Myocardial (18)F-FDG Uptake at PET/CT in Asymptomatic SARS-CoV-2-vaccinated and Nonvaccinated Patients	Radiology. 2023 Sep;308(3):e230743.	Original Article
80	Masui A, Harada T, Noda Y et al.	リハビリテーション医学	Retrospective study on the trajectories of lower limb volume after outpatient-based complex decongestive therapy in post-operative gynecological cancer patients with lymphedema	Support Care Cancer. 2023 May 6;31(6):318. (オンライン)	Original Article
81	Suzuki T, Tsuji O, Ichikawa M et al.	リハビリテーション医学	Early Phase Functional Recovery after Spinal Intramedullary Tumor Resection Could Predict Ambulatory Capacity at 1 Year after Surgery	Asian Spine J. 2023 Apr;17(2):355-364.	Original Article
82	Hosoi Y, Kamimoto T, Sakai K et al.	リハビリテーション医学	Estimation of minimal detectable change in the 10-meter walking test for patients with stroke: a study stratified by gait speed	Front Neurol. 2023 Jul 19;14:1219505. (オンライン)	Original Article
83	Kamimoto T, Hosoi Y, Tanamachi K et al.	リハビリテーション医学	Combined Ankle Robot Training and Robot-assisted Gait Training Improved the Gait Pattern of a Patient with Chronic Traumatic Brain Injury	Prog Rehabil Med. 2023 Aug 17;8:20230024. (オンライン)	Case report
84	Harada T, Tsuji T, Ueno J et al.	リハビリテーション医学	Association of sarcopenia with relative dose intensity of neoadjuvant chemotherapy in older patients with locally advanced esophageal cancer: A retrospective cohort study	J Geriatr Oncol. 2023 Sep;14(7):101580.	Original Article
85	Mishima K, Fujiyama Y, Wakabayashi T et al.	リハビリテーション医学	Combining preoperative C-reactive protein values with the Tokyo Guidelines 2018 grading criteria can enhance the prediction of surgical difficulty in early laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis	HPB (Oxford). 2024 Mar;26(3):426-435.	Original Article
86	Tsuji T, Matsuda S, Takeuchi M et al.	外科学(一般・消化器)	Updates of perioperative multidisciplinary treatment for surgically resectable esophageal cancer	Jpn J Clin Oncol. 2023 Jul 31;53(8):645-652.	Review
87	Matsuda S, Kitagawa Y, Okui J et al.	外科学(一般・消化器)	Prognostic impact of endoscopic response evaluation after neoadjuvant chemotherapy for esophageal squamous cell carcinoma: a nationwide validation study	Esophagus. 2023 Jul;20(3):455-464.	Original Article
88	Matsuda S, Kitagawa Y, Okui J et al.	外科学(一般・消化器)	Old age and intense chemotherapy exacerbate negative prognostic impact of postoperative complication on survival in patients with esophageal cancer who received neoadjuvant therapy: a nationwide study from 85 Japanese esophageal centers	Esophagus. 2023 Jul;20(3):445-454.	Original Article
89	Tsunoda J, Shigeta K, Seishima R et al.	外科学(一般・消化器)	Efficacy of transanal drainage tube placement in preventing anastomotic leakage after ileal pouch-anal anastomosis in patients with ulcerative colitis	Surg Endosc. 2024 Feb;38(2):837-845.	Original Article
90	Takeuchi M, Kawakubo H, Tsuji T et al.	外科学(一般・消化器)	Evaluation of surgical complexity by automated surgical process recognition in robotic distal gastrectomy using artificial intelligence	Surg Endosc. 2023 Jun;37(6):4517-4524.	Original Article
91	Nakano Y, Endo Y, Kitago M et al.	外科学(一般・消化器)	Clinical characteristics and predictive factors of postoperative intra-abdominal abscess after distal pancreatectomy	Langenbecks Arch Surg. 2023 May 2;408(1):170. (オンライン)	Original Article

92	Takeuchi M, Endo H, Kawakubo H et al.	外科学(一般・消化器)	No difference in the incidence of postoperative pulmonary complications between abdominal laparoscopy and laparotomy for minimally invasive thoroscopic esophagectomy: a retrospective cohort study using a nationwide Japanese database	Esophagus. 2024 Jan;21(1):11-21.	Original Article
93	Matsui K, Kawakubo H, Matsuda S et al.	外科学(一般・消化器)	Clinical predictors of early postoperative recurrence after radical esophagectomy for thoracic esophageal cancer	Esophagus. 2023 Oct;20(4):679-690.	Original Article
94	Hayashi K, Kitago M, Abe Y et al.	外科学(一般・消化器)	Long-term survival after surgical resection for bone metastasis from pancreatic cancer: A case report	Medicine (Baltimore). 2023 Nov 17;102(46):e35856.	Case report
95	Matsuda S, Irino T, Kawakubo H et al.	外科学(一般・消化器)	Evaluation of Endoscopic Response Using Deep Neural Network in Esophageal Cancer Patients Who Received Neoadjuvant Chemotherapy	Ann Surg Oncol. 2023 Jun;30(6):3733-3742.	Original Article
96	Okui J, Shigeta K, Kato Y et al.	外科学(一般・消化器)	Delayed-Onset Organ/Space Surgical Site Infection Worsens Prognosis in High-Risk Stage II and III Colorectal Cancer	J Gastrointest Surg. 2023 Nov;27(11):2515-2525.	Original Article
97	Matsuda S, Kitagawa Y, Takemura R et al.	外科学(一般・消化器)	Real-world Evaluation of the Efficacy of Neoadjuvant DCF Over CF in Esophageal Squamous Cell Carcinoma: Propensity Score-matched Analysis From 85 Authorized Institutes for Esophageal Cancer in Japan	Ann Surg. 2023 Jul 1;278(1):e35-e42.	Original Article
98	Seishima R, Okabayashi K, Ikeuchi H et al.	外科学(一般・消化器)	Effect of Biologics on the Risk of Advanced-Stage Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: A Nationwide Study	Am J Gastroenterol. 2023 Jul 1;118(7):1248-1255.	Original Article
99	Matsuda S, Kitagawa Y, Okui J et al.	外科学(一般・消化器)	Nationwide Validation Study of the Prognostic Significance of Stratification Using Pathological Stage and Response to Neoadjuvant Chemotherapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Ann Surg. 2023 Aug 1;278(2):e234-e239.	Original Article
100	Matsuda S, Takeuchi M, Kawakubo H et al.	外科学(一般・消化器)	Oncological and physiological impact of thoracic duct resection in esophageal cancer	Dis Esophagus. 2023 Sep 30;36(10):doad015.	Original Article
101	Nishimura E, Matsuda S, Kawakubo H et al.	外科学(一般・消化器)	The impact of thoracic duct resection on the long-term body composition of patients who underwent esophagectomy for esophageal cancer and survived without recurrence	Dis Esophagus. 2023 Sep 1;36(9):doad002.	Original Article
102	Matsuda S, Kitagawa Y, Kawakubo H et al.	外科学(一般・消化器)	A nationwide validation of the prognostic impact of pathological response and the distribution of recurrence patterns in responders after neoadjuvant chemotherapy for esophageal squamous cell carcinoma	Esophagus. 2023 Apr;20(2):205-214.	Original Article
103	Takeuchi M, Obara H, Furube T et al.	外科学(一般・消化器)	Effect of aqueous olanexidine versus alcohol-based chlorhexidine for surgical skin antisepsis on incidence of surgical site infections in gastrointestinal surgery: multicentre randomised controlled clinical trial (OEDO trial) protocol	BMJ Open. 2023 Aug 21;13(8):e074169. (オンライン)	Original Article
104	Morimoto Y, Matsuda S, Kawakubo H et al.	外科学(一般・消化器)	Tumor Burden Monitoring with Circulating Tumor DNA During Treatment in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Ann Surg Oncol. 2023 Jun;30(6):3747-3756.	Original Article
105	Matsuda S, Irino T, Okamura A et al.	外科学(一般・消化器)	Endoscopic Evaluation of Pathological Complete Response Using Deep Neural Network in Esophageal Cancer Patients Who Received Neoadjuvant Chemotherapy-Multicenter Retrospective Study from Four Japanese Esophageal Centers	Ann Surg Oncol. 2023 Nov;30(12):7472-7480.	Original Article

106	Obara H, Matsubara K, Fujimura N et al.	外科学(一般・消化器)	Five-Year Outcomes of the Bioresorbable Peripheral Remedy Stent in the Treatment of Iliac Artery Disease	J Vasc Interv Radiol. 2023 Jun;34(6):1024-1035.e2.	Original Article
107	Kato H, Seishima R, Mizuno S et al.	外科学(一般・消化器)	The Prognostic Impact of Preoperative Osteopenia in Patients With Colorectal Cancer	Dis Colon Rectum. 2023 Dec 1;66(12):e1225-e1233.	Original Article
108	Kato H, Seishima R, Nakamura K et al.	外科学(一般・消化器)	The Prognostic Nutritional Index is a Predictive Marker for Postoperative Complications in Patients with Late-Onset Ulcerative Colitis	World J Surg. 2023 Nov;47(11):2867-2875.	Original Article
109	Takeda T, Narita K, Yasumizu Y et al.	泌尿器科学	Factors affecting the selection of eligible candidates for focal therapy for prostate cancer	World J Urol. 2023 Jul;41(7):1821-1827.	Original Article
110	Kamitani R, Matsumoto K, Yokota K et al.	泌尿器科学	Maintenance avelumab therapy for urothelial carcinoma in a hemodialysis patient: a case report	Int Cancer Conf J. 2023 Nov 13;13(1):58-62. (オンライン)	Case report
111	Mizuno R, Yasumizu Y, Tanaka N et al.	泌尿器科学	Anemia in patients ≥ 75 years with metastatic clear cell renal cell carcinoma: an important poor prognostic factor in the international metastatic renal cell carcinoma database consortium model	BMC Urol. 2024 Jan 11;24(1):13. (オンライン)	Original Article
112	Komori T, Matsumoto K, Kosaka T et al.	泌尿器科学	Long-Term Prognosis and Treatment Strategy of Persistent PSA After Radical Prostatectomy	Ann Surg Oncol. 2023 Oct;30(11):6936-6942.	Original Article
113	Kobayashi H, Kosaka T, Nakamura K et al.	泌尿器科学	Genomic analysis of aggressive ductal adenocarcinoma of the prostate	Cancer Med. 2023 Apr;12(7):8445-8451.	Original Article
114	Okawara H, Shiraishi Y, Sato K et al.	整形外科	Visually assessing work performance using a smartwatch via day-to-day fluctuations in heart rate variability	Digit Health. 2024 Mar 26;10:20552076241239240. (オンライン)	Original Article
115	Kurata H, Meguro S, Abe Y et al.	内科学(腎・内・代)	Dietary protein intake and all-cause mortality: results from The Kawasaki Aging and Wellbeing Project	BMC Geriatr. 2023 Aug 9;23(1):479. (オンライン)	Original Article
116	Yamaguchi S, Irie J, Mitsuishi M et al.	内科学(腎・内・代)	Safety and efficacy of long-term nicotinamide mononucleotide supplementation on metabolism, sleep, and nicotinamide adenine dinucleotide biosynthesis in healthy, middle-aged Japanese men	Endocr J. 2024 Feb 28;71(2):153-169.	Original Article
117	Matsubara Y, Kiyohara H, Mikami Y et al.	内科学(消化器)	Gastrointestinal symptoms in COVID-19 and disease severity: a Japanese registry-based retrospective cohort study	J Gastroenterol. 2024 Mar;59(3):195-208.	Original Article
118	Hirata K, Yamada Y, Hamamoto Y et al.	内科学(消化器)	Prospective feasibility study of indigo naturalis ointment for chemotherapy-induced oral mucositis	BMJ Support Palliat Care. 2024 Jan 8;13(e3):e1001-e1007. (オンライン)	Original Article
119	Aoki Y, Kiyohara H, Mikami Y et al.	内科学(消化器)	Risk of venous thromboembolism with a central venous catheter in hospitalized Japanese patients with inflammatory bowel disease: a propensity score-matched cohort study	Intest Res. 2023 Jul;21(3):318-327.	Original Article
120	Miyazaki K, Kato M, Sasaki M et al.	内科学(消化器)	First clinical experience with esophageal ESD using a novel adjustable traction device	Endosc Int Open. 2023 May 9;11(5):E446-E450. (オンライン)	Original Article
121	Kato M, Hosoe N, Gotoda T et al.	内科学(消化器)	Treatment with vonoprazan for 3 weeks is not inferior to 8 weeks for the management of gastric ESD: a multicenter noninferiority randomized study	J Gastroenterol. 2023 Apr;58(4):358-366.	Original Article
122	Kayashima A, Horibe M, Iwasaki E et al.	内科学(消化器)	Non-interventional Management of Asymptomatic Diminutive Cholelithiasis Versus Endoscopic Extraction in Consecutive Patients	Dig Dis Sci. 2023 Dec;68(12):4456-4465.	Original Article

123	Tanaka H, Maetani T, Chubachi S et al.	内科学(呼吸器)	Clinical utilization of artificial intelligence-based COVID-19 pneumonia quantification using chest computed tomography – a multicenter retrospective cohort study in Japan	Respir Res. 2023 Oct 5;24(1):241. (オンライン)	Original Article
124	Nakagawara K, Shiraishi Y, Chubachi S et al.	内科学(呼吸器)	Integrated assessment of computed tomography density in pectoralis and erector spinae muscles as a prognostic biomarker for coronavirus disease 2019	Clin Nutr. 2024 Mar;43(3):815-824.	Original Article
125	Tanaka H, Chubachi S, Namkoong H et al.	内科学(呼吸器)	Propensity-Score Matched Analysis of the Effectiveness of Baricitinib in Patients With Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Using Nationwide Real-World Data: An Observational Matched Cohort Study From the Japan COVID-19 Task Force	Open Forum Infect Dis. 2023 Jun 8;10(7):ofad311. (オンライン)	Original Article
126	Tanaka H, Chubachi S, Asakura T et al.	内科学(呼吸器)	Characteristics and clinical effectiveness of COVID-19 vaccination in hospitalized patients in Omicron-dominated epidemic wave – a nationwide study in Japan	Int J Infect Dis. 2023 Jul;132:84-88.	Original Article
127	Yagi K, Asakura T, Terai H et al.	内科学(呼吸器)	Clinical features of Japanese patients with gastrointestinal long-COVID symptoms	JGH Open. 2023 Dec 6;7(12):998-1002. (オンライン)	Original Article
128	Watase M, Miyata J, Terai H et al.	内科学(呼吸器)	Cough and sputum in long COVID are associated with severe acute COVID-19: a Japanese cohort study	Respir Res. 2023 Nov 14;24(1):283. (オンライン)	Original Article
129	Kusumoto T, Chubachi S, Namkoong H et al.	内科学(呼吸器)	Association between ABO blood group/genotype and COVID-19 in a Japanese population	Ann Hematol. 2023 Nov;102(11):3239-3249.	Original Article
130	Kusumoto T, Chubachi S, Namkoong H	内科学(呼吸器)	Characteristics of patients with COVID-19 who have deteriorating chest X-ray findings within 48 h: a retrospective cohort study	Sci Rep. 2023 Dec 12;13(1):22054. (オンライン)	Original Article
131	Nakagawara K, Kamata H, Chubachi S et al.	内科学(呼吸器)	Impact of respiratory bacterial infections on mortality in Japanese patients with COVID-19: a retrospective cohort study	BMC Pulm Med. 2023 Apr 26;23(1):146. (オンライン)	Original Article
132	Terai H, Ishii M, Takemura R et al.	内科学(呼吸器) 腫瘍センター	Comprehensive analysis of long COVID in a Japanese nationwide prospective cohort study	Respir Investig. 2023 Nov;61(6):802-814.	Original Article
133	Horiuchi K, Ikemura S, Sato T et al.	内科学(呼吸器)	Pre-existing Interstitial Lung Abnormalities and Immune Checkpoint Inhibitor-Related Pneumonitis in Solid Tumors: A Retrospective Analysis	Oncologist. 2024 Jan 5;29(1):e108-e117.	Original Article
134	Fukushima T, Maetani T, Chubachi S et al.	内科学(呼吸器)	Epicardial adipose tissue measured from analysis of adipose tissue area using chest CT imaging is the best potential predictor of COVID-19 severity	Metabolism. 2024 Jan;150:155715.	Original Article
135	Fukunaga K, Tagaya E, Ishida M et al.	内科学(呼吸器)	Real-world impact of dupilumab on asthma disease burden in Japan: The CROSSROAD study	Allergol Int. 2023 Oct;72(4):537-544.	Original Article
136	Sakurai K, Chubachi S, Asakura T et al.	内科学(呼吸器)	Prognostic significance of hypertension history and blood pressure on admission in Japanese patients with coronavirus disease 2019: integrative analysis from the Japan COVID-19 Task Force	Hypertens Res. 2024 Mar;47(3):639-648.	Original Article
137	Nakagawara K, Kamata H, Chubachi S et al.	内科学(呼吸器)	Diagnostic significance of secondary bacteremia in patients with COVID-19	J Infect Chemother. 2023 Apr;29(4):422-426.	Original Article
138	Shimada T, Chubachi S, Otake S et al.	内科学(呼吸器)	Differential impacts between fat mass index and fat-free mass index on patients with COPD	Respir Med. 2023 Oct;217:107346.	Original Article
139	Ito F, Terai H, Kondo M et al.	内科学(呼吸器)	Cluster analysis of long COVID in Japan and association of its trajectory of symptoms and quality of life	BMJ Open Respir Res. 2024 Feb 23;11(1):e002111. (オンライン)	Original Article

140	Masaki K, Miyata J, Kamatani T et al.	内科学(呼吸器)	Risk factors for poor adherence to inhaled corticosteroid therapy in patients with moderate to severe asthma	Asian Pac J Allergy Immunol. 2023 Jun;41(2): 113-120.	Original Article
141	Takeuchi T, Nishikawa K, Yamada F et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Real-World Safety and Efficacy of Biosimilar CT-P13 in Patients with Immune-Mediated Inflammatory Diseases: Integrated Analysis of Three Japanese Prospective Observational Studies	Drug Saf. 2023 Oct;46(10): 991-1005.	Original Article
142	Takeuchi T, Tanaka S, Murata M et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Irreversible covalent Bruton's tyrosine kinase inhibitor, TAS5315 versus placebo in rheumatoid arthritis patients with inadequate response to methotrexate: a randomised, double-blind, phase IIa trial	Ann Rheum Dis. 2023 Aug;82(8): 1025-1034.	Original Article
143	Kaneko Y, Sakurai M, Snijder R et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	A retrospective, longitudinal study of rheumatoid arthritis treatment patterns with Janus kinase inhibitors and other disease-modifying antirheumatic drugs in Japan	Mod Rheumatol. 2023 Apr 13;33(3): 448-459.	Original Article
144	Tamai H, Ikeda K, Miyamoto T et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Reduced versus maximum tolerated methotrexate dose concomitant with adalimumab in patients with rheumatoid arthritis (MIRACLE): a randomised, open-label, non-inferiority trial	Lancet Rheumatol. 2023 Apr;5(4): e215-e224.	Original Article
145	Kaneko Y, Kameda H, Ikeda K et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Treatment pattern and changes in oral glucocorticoid dose after tocilizumab treatment in patients with adult Still's disease: An analysis of a Japanese claims database	Int J Rheum Dis. 2023 Oct;26(10): 1967-1978.	Original Article
146	Takei H, Takanashi S, Otomo K et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Clinical and immunological effects of hydroxychloroquine in patients with active rheumatoid arthritis despite antirheumatic treatment	Mod Rheumatol. 2023 Dec 22;34(1): 50-59.	Original Article
147	Kikuchi J, Hanaoka H, Saito S et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Deep remission within 12 months prevents renal flare and damage accrual in lupus nephritis	Clin Exp Rheumatol. 2023 Jul;41(7): 1500-1506.	Original Article
148	Suzuki S, Asakura K, Okui M et al.	外科学(呼吸器)	Prognostic factors affecting survival in patients with non-small cell lung cancer treated with salvage surgery after drug therapy: a multi-institutional retrospective study	World J Surg Oncol. 2023 Sep 15;21(1): 290. (オンライン)	Original Article
149	Takaya K, Baba M, Kuranami M et al.	形成外科学	Usefulness of Harmonic ACE+7 Scalpel in Breast Reconstruction with Extended Latissimus Dorsi Flap: An Open-label Single Institution Pilot Study	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2023 Aug 3;11(8): e5163. (オンライン)	Original Article
150	Nakamura K, Hayashi H, Kawano R et al.	腫瘍センター	BRCA1/2 reversion mutations in a pan-cancer cohort	Cancer Sci. 2024 Feb;115(2): 635-647.	Original Article
151	Muramoto Y, Nakashima D, Amano T et al.	スポーツ医学総合センター	Estimation of maximal lactate steady state using the sweat lactate sensor	Sci Rep. 2023 Jun 26;13(1): 10366. (オンライン)	Original Article
152	Miyama H, Takatsuki S, Ikemura N et al.	内科学(循環器)	Prognostic Implications and Efficacy of Catheter Ablation by Atrial Fibrillation Type	J Am Heart Assoc. 2023 Sep 19;12(18): e029321.	Original Article
153	Nakamaru R, Kohsaka S, Shiraishi Y et al.	内科学(循環器)	Temporal Trends in Heart Failure Management and Outcomes: Insights From a Japanese Multicenter Registry of Tertiary Care Centers	J Am Heart Assoc. 2023 Nov 7;12(21): e031179.	Original Article
154	Kono T, Tomisato S, Ozawa H	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Effectiveness of vocal fold medialization surgery on the swallowing function of patients with unilateral vocal fold paralysis	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2023 Jul 28;8(4): 1007-1013. (オンライン)	Original Article
155	Takeuchi M, Endo H, Hibi T et al.	外科学(一般・消化器)	The impact of COVID-19 for postoperative outcomes using a nationwide Japanese database of patients undergoing distal gastrectomy for gastric cancer	Ann Gastroenterol Surg. 2023 May 4;7(6): 887-895. (オンライン)	Original Article

156	Abe Y, Itano O, Takemura Y et al.	外科学(一般・消化器)	Phase I study of neoadjuvant S-1 plus cisplatin with concurrent radiation for biliary tract cancer (Tokyo Study Group for Biliary Cancer: TOSBIC02)	Ann Gastroenterol Surg. 2023 Apr 24;7(5): 808-818.	Original Article
157	Takeuchi T, Chino Y, Kawanishi M et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Efficacy and pharmacokinetics of ozoralizumab, an anti-TNF α NANOBODY(®) compound, in patients with rheumatoid arthritis: 52-week results from the OHZORA and NATSUZORA trials	Arthritis Res Ther. 2023 Apr 13;25(1):60.	Original Article
158	Kato C, Uemura O, Sato Y et al.	リハビリテーション医学	Functional Outcome Prediction After Spinal Cord Injury Using Ensemble Machine Learning	Arch Phys Med Rehabil. 2024 Jan;105(1): 95-100.	Original Article
159	Kato C, Uemura O, Sato Y et al.	リハビリテーション医学	Decision Tree Analysis Accurately Predicts Discharge Destination After Spinal Cord Injury Rehabilitation	Arch Phys Med Rehabil. 2024 Jan;105(1): 88-94.	Original Article
160	Yamamoto R, Suzuki M, Sasaki J	救急医学	Potential harms of emergency department thoracotomy in patients with persistent cardiac arrest following trauma: a nationwide observational study	Sci Rep. 2023 Sep 25;13(1): 16042. (オンライン)	Original Article
161	Fukuda K	内科学(循環器)	Establishment and Industrialization of a New Treatment Method Using Regenerative Cardiomyocyte Transplantation for Refractory Severe Heart Failure – Secondary Publication	JMA J. 2023 Oct 16;6(4): 388-392.	Review
162	Ichihara YK, Shiraishi Y, Kohsaka S et al.	内科学(循環器)	Association of pre-hospital precipitating factors with short- and long-term outcomes of acute heart failure patients: A report from the WET-HF2 registry	Int J Cardiol. 2023 Oct 15;389: 131161.	Review
163	Iriki H, Takahashi H, Amagai M	皮膚科学	Diverse Role of OX40 on T Cells as a Therapeutic Target for Skin Diseases	J Invest Dermatol. 2023 Apr;143(4): 545-553.	Review
164	Namkoong H, Holland SM	感染症学	Host Susceptibility to Nontuberculous Mycobacterial Pulmonary Disease	Clin Chest Med. 2023 Dec;44(4): 723-730.	Review
165	Uchida H	精神・神経科学	[Psychedelic Drugs: Past, Present, and Future]	Brain Nerve. 2023 Dec;75(12): 1355-1359.	Review
166	Takeuchi H, Watabe K	精神・神経科学	Does short-term antipsychotic discontinuation of up to 3 weeks worsen symptoms in acute schizophrenia? A pooled analysis of placebo washout data	Psychiatry Clin Neurosci. 2023 Jun;77(6): 338-344.	Review
167	Wada M, Yasuda H, Nakajima S et al.	精神・神経科学	Efficacy and moderators of prevention and treatment of delirium with melatonin receptor agonists: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials	Gen Hosp Psychiatry. 2023 Nov-Dec;85: 71-79.	Review
168	Kishimoto T, Hagi K, Kurokawa S et al.	精神・神経科学	Efficacy and safety/tolerability of antipsychotics in the treatment of adult patients with major depressive disorder: a systematic review and meta-analysis	Psychol Med. 2023 Jul;53(9): 4064-4082.	Review
169	Kobayashi K, Shiba Y, Honda S et al.	精神・神経科学	Short-Term Effect of Auditory Stimulation on Neural Activities: A Scoping Review of Longitudinal Electroencephalography and Magnetoencephalography Studies	Brain Sci. 2024 Jan 26;14(2): 131. (オンライン)	Review
170	Ueda R, Toda M	精神・神経科学	[Molecular Mechanisms of Pituitary Tumorigenesis]	No Shinkei Geka. 2023 Jul;51(4): 615-623.	Review
171	Takahashi S, Toda M	脳神経外科学	Usefulness of STA ultrasonography parameters after STA-MCA bypass in patients with moyamoya disease: A short review	Neurosurg Rev. 2024 Jan 2;47(1):26. (オンライン)	Review
172	Abe Y;Sato Y, Tanaka M, Ochiai D	産婦人科学	Development of a new treatment for preterm birth complications using amniotic fluid stem cell therapy	Histol Histopathol. 2023 Sep;38(9): 965-974.	Review

173	Nori S, Watanabe K, Takeda K et al.	整形外科学	Influence of the timing of surgery for cervical spinal cord injury without bone injury in the elderly: A retrospective multicenter study	J Orthop Sci. 2024 Mar;29(2): 480-485.	Review
174	Nagoshi N, Sugai K, Okano H et al.	整形外科学	Regenerative Medicine for Spinal Cord Injury Using Induced Pluripotent Stem Cells	Spine Surg Relat Res. 2023 Sep 4;8(1): 22-28. (オンライン)	Review
175	Okano H, Morimoto S, Kato C et al.	生理学教室	Induced pluripotent stem cells-based disease modeling, drug screening, clinical trials, and reverse translational research for amyotrophic lateral sclerosis	J Neurochem. 2023 Dec;167(5): 603-614.	Review
176	Hirata Y, Noorani A, Song S et al.	外科学(一般・消化器)	Early stage gastric adenocarcinoma: clinical and molecular landscapes	Nat Rev Clin Oncol. 2023 Jul;20(7): 453-469.	Review
177	Endo Y, Tanaka M, Kitago M et al.	外科学(一般・消化器)	Comparison Between Plastic and Metallic Biliary Stent Placement for Preoperative Patients with Pancreatic Head Cancer: A Systematic Review and Meta-Analysis	Ann Surg Oncol. 2024 Feb;31(2): 1319-1327.	Review
178	Nakayama T, Mitsuno R, Azegami T et al.	内科学(腎・内・代)	A systematic review and meta-analysis of the clinical impact of stopping renin-angiotensin system inhibitor in patients with chronic kidney disease	Hypertens Res. 2023 Jun;46(6): 1525-1535.	Review
179	Sakurai M, Ishitsuka K, Becker HJ et al.	内科学(血液)	Ex vivo expansion of human hematopoietic stem cells and clinical applications	Cancer Sci. 2024 Mar;115(3): 698-705.	Review
180	Kobari Y, Hayashida K	内科学(循環器)	What is the current optimal antithrombotic therapy after transcatheter aortic valve implantation? Current evidence from Japan and the world	J Cardiol. 2024 Mar;83(3): 141-148.	Review

計180件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名,出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 人を対象とする医学系研究およびヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究における安全性情報の取り扱いに関する標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究およびヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する個人情報保護ガイドライン ・ 人体から取得された試料および情報等の保管に関する標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究およびヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する慶應義塾大学医学部倫理委員会標準業務手順書 ・ 慶應義塾大学医学部倫理委員会内規 ・ 慶應義塾における人を対象とする生命科学・医学系研究の実施に関する規程 ・ 医学部・病院 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 慶應義塾利益相反マネジメント・ポリシー ・ 慶應義塾利益相反マネジメント内規 ・ 大学病院臨床研究利益相反マネジメント内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 15 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>< 倫理審査委員会の委員向けの研修 ></p> <ul style="list-style-type: none">委員会内研修会「2023年7月施行の改訂研究倫理指針について」(1回)治験倫理審査委員会委員研修(厚生労働省 臨床研究総合促進事業「臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム」)(1回) <p>< 臨床研究の研究者向けの講習等 ></p> <ul style="list-style-type: none">臨床研究講習会(2回)臨床研究プロジェクトマネジメントワークショップ(1回)臨床研究プロトコールワークショップ(1回)臨床研究・治験従事者研修(厚生労働省 臨床研究総合促進事業「臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム」)(1回)臨床研究発展研修会(2回)臨床研究推進啓発セミナー(6回)	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none">• 地域医療を担う教育中核病院と緊密に連携した専門研修プログラムの設定• 定期的な臨床カンファレンス、および各専門領域における国内外のリーダーによるセミナー・講演会を開催し、双方向性討論の展開によりEBMへのアプローチを明確化• 大学病院と地域の教育中核病院間のインターネットを用いた遠隔カンファレンスの開催• 臨床/研究セミナー・講演会のライブ型配信あるいは録画（オン・デマンド型）配信による先端医療知識と最新情報の共有• 高度な臨床スキルや手術的技能の修得のために、手術を含む種々の臨床手技シミュレーションを実践できるeラーニングコンテンツの提供• 情報リテラシー、EBM教育のために必要な電子書籍・雑誌の拡充• 高度な専門医療技術の修得、医療安全の向上を図るための医療シミュレーター機器を用いた専門臨床研修会の開催• Cadaverを用いたクリニカル・アトミーラボ（臨床解剖ラボ）での基本手技と高度な専門診療技能の修得、高度な手術手技の熟練を目的とするセミナーの開催• 高度な先進医療や臨床研究の実施に欠かせない、医療倫理、研究倫理、医療安全に関するセミナーの開催、臨床研究に従事する者のeラーニング（Aprin）の必修化• 臨床研究中核病院としての臨床研究の研修• 地域がん診療連携拠点病院としての高度先進的がん医療の研修• 専門医研修プログラムの充実や情報共有を目的とした、本学と教育中核病院の専門医研修プログラム責任者会議の定期的開催• 海外の医科大学・医学部・病院との連携による国際化の推進
--

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	248 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者 氏名	診療科	役職等	臨床経験 年数	特記事項
福永 興壱	内科	教室主任・診療科部長・教授	30	内科統括
甲田 祐也	内科	専修医担当主任・専任講師	17	内科統括
家田 真樹	循環器内科	診療科部長・教授	29	
中本 伸宏	消化器内科	診療科部長・准教授	26	
林 香	腎臓・内分泌・代謝内科	診療科部長・教授	20	
中原 仁	神経内科	診療科部長・教授	21	
片岡 圭亮	血液内科	診療科部長・教授	19	
金子 祐子	リウマチ・膠原病内科	診療科部長・教授	27	
志水 秀行	外科	教室主任・診療科部長・教授	38	外科統括
長谷川 康	外科	専修医担当主任・専任講師	22	外科統括

尾原 秀明	一般・消化器外科	診療科部長・准教授	31	
朝倉 啓介	呼吸器外科	診療科部長・教授	22	
藤野 明浩	小児外科	診療科部長・教授	28	
戸田 正博	脳神経外科	教室主任・診療科部長・教授	37	
山田 高成	麻酔科	教室主任・診療科部長・教授	24	
中村 雅也	整形外科	教室主任・診療科部長・教授	37	
貴志 和生	形成外科	教室主任・診療科部長・教授	36	
鳴海 覚志	小児科	教室主任・診療科部長・教授	23	
田中 守	産科	教室主任・診療科部長・教授	38	産婦人科統括
山上 亘	婦人科	診療科部長・教授	24	
根岸 一乃	眼科	教室主任・診療科部長・教授	36	
高橋 勇人	皮膚科	教室主任・准教授	24	
船越 建	皮膚科	診療科部長・准教授	23	
大家 基嗣	泌尿器科	教室主任・診療科部長・教授	37	
小澤 宏之	耳鼻咽喉科	教室主任・診療科部長・教授	26	
内田 裕之	精神・神経科	教室主任・診療科部長・教授	26	
陣崎 雅弘	放射線診断科	教室主任・診療科部長・教授	37	放射線科統括
武田 篤也	放射線治療科	診療科部長・教授	30	
中川 種昭	歯科・口腔外科	教室主任・診療科部長・教授	39	
辻 哲也	リハビリテーション科	教室主任・診療科部長・教授	34	
佐々木 淳一	救急科	教室主任・診療科部長・教授	35	
大喜多 肇	病理診断科	診療科部長・准教授	29	
金井 弥栄	病理診断科	教室主任・教授	35	
佐々木 淳一	総合診療科	診療科部長・教授	35	
松下 弘道	臨床検査科	教室主任・診療科部長・教授	32	
田野崎 隆二	輸血・細胞療法センター	センター長・教授	39	
福永 興壺	漢方医学センター	センター長・教授	30	
佐藤 和毅	スポーツ医学総合センター	センター長・教授	35	
大家 基嗣	血液浄化・透析センター	センター長・教授	37	
長谷川 直樹	臨床感染症センター	部長・教授	39	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 非該当 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 松本 守雄
管理担当者氏名	事務局長 古田 正

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	秘書課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事統括室
		看護記録	医事統括室
		検査所見記録	医事統括室
		エックス線写真	医事統括室
		紹介状	医事統括室
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事統括室	○紙媒体→一患者一番号制で外来・入院別に分けて集中管理を実施 ○電子媒体→情報システム部内にて、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に沿った管理を実施 ○診療記録は病院外への持ち出しを禁止している。但し、裁判所その他公的機関から要請があった場合は、病院長の許可を得て、病院外へ持ち出すことができる。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事統括室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院学術研究支援課
		高度の医療の研修の実績	専修医研修センター
		閲覧実績	医事統括室
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事統括室
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事統括室 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	電子媒体または紙媒体で保管

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
	第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	電子媒体または紙媒体で保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部 医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医用工学室 医療安全管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医用工学室 医療安全管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医用工学室	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医用工学室			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事統括室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術・血管造影センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	人事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	総務課 経営企画室
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	業務監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	経営企画室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	病院長 松本 守雄
閲覧担当者氏名	総務課長 鈴木 奈奈
閲覧の求めに応じる場所	病院が指定する会議室・相談室等
閲覧の手続の概要 病院(病院長)が閲覧の諾否を個別に検討し、承諾した場合、病院が指定する場所で病院教職員の立ち会いのもと行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・指針の主な内容：</p> <p>当院における医療安全管理体制の確立、医療安全管理のための具体的方策および医療事故発生時の対応方法等について、指針を示し、適切な医療安全管理を推進し、安全な医療の提供に資することを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する基本的な考え方 2. 組織および体制 3. 医療安全管理委員会の設置 4. 医療安全管理部の設置 5. 外部監査 6. 特定機能病院間相互のピアレビュー 7. 医療安全管理のための従業者研修 8. 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 9. 医療事故等発生時の対応 10. その他医療安全の推進のために必要な方針 11. 患者への情報提供 12. 患者からの相談への対応 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・開催状況：年 12 回</p> <p>医療安全管理委員会</p> <p>当院における医療事故、医療紛争の発生を未然に防止する方策を審議し、医療事故発生時の解決策を策定することを目的とし設置されている。</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理のための指針に関する事項 2. 医療安全管理のための研修に関する基本的方針の決定と実施 3. 医療事故を未然に防止するための効果的な院内体制の確立 4. 当院において重大な問題、その他、委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査および分析、患者への対応状況の確認 5. 分析結果を活用した医療安全の確保を目的とした改善のための方策の立案および実施並びに従業者への周知 6. 改善のための方策の実施状況の調査および必要に応じた当該方策の見直し 7. 「医療安全管理委員会報告システム」を用いた実施状況の確認および確認結果を病院長ならびに医療安全管理責任者に報告 8. すべての死亡または死産事例に関する報告の実施状況確認、および確認結果の病院長への報告 9. 実施状況が不十分な場合における、従業者への研修および指導 10. 医療安全に資する診療内容等についてのモニタリング項目の策定 11. 医療事故に関する報告書の書式の制定 12. 医療安全管理マニュアルの作成および改正ならびにその内容の従業者への周知徹底 13. その他、病院長から指示された事項 <p>委員会は上記について病院長に報告、必要に応じて提言をおこなう。</p>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 2 回

・研修の内容（すべて）：

全教職員を対象とした計画に基づいた継続的な教育・研修の実施と評価、年度途中の入職者も含めた入職時研修・新人研修について、人事課を主管部署として、教育・研修の機会を拡充した。

・全教職員を対象とする教育・研修：2023 年度医療安全研修

<医療安全 1>

1. 2023 年度医療安全管理部活動指針
2022 年度インシデント・アクシデント報告集計結果
2. インフォームド・コンセント
3. 医薬品安全管理
4. 医療機器安全管理①
5. 医療放射線安全管理
6. 誤嚥防止
7. 虐待防止①
8. 患者誤認防止

<医療安全 2>

1. 臨床倫理の基本
2. 虐待防止②
3. 医療機器安全管理②
4. MRI 安全管理
5. 認知症ケア
6. 医療事故調査制度
7. 未承認等新規医薬品・医療機器

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

・医療機関内における事故報告等の整備（ 有 ・ 無 ）

・その他の改善のための方策の主な内容：

1. インシデント・アクシデント報告：報告しやすい体制の整備
 - 1) 報告書のフォーマット改修（必須入力項目の整理）
 - 2) 表彰制度の運用（医療安全貢献賞の復活、GOOD JOB賞の創設）
2. インフォームド・コンセント：高難度新規医療技術に関する患者の意思決定支援強化
 - 1) 看護部と連携し、看護師の同席および意思決定支援の推進
 - ①高難度新規医療技術評価委員会意見書を看護部と共有
 - ②看護師同席のための外来業務整理（看護部による）
 - 2) インフォームド・コンセントのモニタリングと結果の共有
3. 病理結果の未読対策
 - 1) システム改修により依頼医が既読対応できるようシステム改修
 - 2) 結果確認のリマインドを30日経過時点に前倒して実施
4. 医療安全管理マニュアル〈新規制定〉
 - 1) 手術・血管造影センター 体内遺残防止マニュアル
 - 2) 末梢静脈穿刺・刺入（穿刺後に神経損傷の可能性がある患者への対応フロー含む）
 - 3) 鎮静マニュアル（診療科/診療施設部門/診療クラスター）
 - 4) 間欠導尿

5. 医療安全管理マニュアル〈改正〉

1) 中心静脈カテーテル挿入・管理

：日本医療安全調査機構発出の提言17号 第2報(改訂版)に則ったマニュアル改正

2) 院内急変時対応フローチャートの改正、小児患者専用フローチャートの作成

3) 人工呼吸器マニュアル：移送患者用人工呼吸器の使用手順作成

4) 院内自殺対策マニュアル：自殺総合対策大綱の改訂に伴い改正

5) ドレーン・チューブ管理マニュアル：取り扱い方法など日常的な安全管理を収載

6) 胸腔ドレーン挿入・管理：電動式低圧持続吸引器使用手順、挿入・穿刺時のタイムアウト

7) 死亡および死産時の対応

8) 医療事故対応マニュアル：異状死発生時の対応、重大な医療事故発生時の夜間・休日対応

9) 転倒/転落：夜間・休日の初期対応フローチャート

6. 警鐘的事例の検証と再発防止対策の策定

7. 医療法に基づく医療事故調査委員会開催および結果に基づく再発防止対策の策定

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <p>「慶應義塾大学病院感染対策指針」</p> <p>院内感染の防止、感染の制御、拡大防止のため、病院感染対策を全病院職員が把握して、感染源の速やかな特定、制圧、終息を図ることを本指針の目的としている。</p> <p>病院の理念に基づき、患者の皆様および病院職員に安全で快適な医療環境を提供するため、感染防止および感染制御の対策に取り組むための基本的な考え方。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院感染対策に関する基本的な考え方 2) 感染制御部の設置 3) 感染対策運営委員会および感染専門委員会の設置 4) 職員研修 5) 感染発生状況の報告 6) 感染発生時の対応 7) 患者の皆様への情報提供と説明 8) 病院における感染対策の推進 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 19 回
<p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染対策運営委員会 <ul style="list-style-type: none"> 開 催：月 1 回（年 12 回） 2023 年度は 12 回開催した。 役 割：病院感染に関する報告事項を受けて、病院感染対策にかかわる具体的施策等を審議し、感染制御部（ICT）に助言を行う。 構成員：病院長、看護部長、薬剤部副部長、臨床検査科診療部長、大学病院事務局長、輸血・細胞療法センター長、食養管理室の部門代表者、臨床検査技術室長、滅菌管理部の部門代表者、ICT メンバーなど（27 名） ・ 主な報告内容は、薬剤耐性菌・血液培養陽性などの微生物検査結果の動向、病院内で発生している感染症の発生状況、抗菌薬など感染症治療薬の使用状況と適正使用に関する内容、手指衛生遵守率調査結果と改善活動に関する内容。 ・ 主な審議検討事項は、発生調査や感染対策の実施状況・内容について決定する。結果を受け、内容の評価を行う。 例：RS ウイルス感染症、疑いを含む結核、薬剤耐性菌複数発生などの際に、ICT からの情報をもとに患者隔離、当該病棟入院中の他患者への対応、新入院の制限実施、終息の決定。 2) 感染専門委員会 <ul style="list-style-type: none"> 開 催：隔月（年 6 回）、臨時開催（1 回） 役 割：感染制御部（ICT）が策定し、感染対策運営委員会が承認した感染防止に関わる施策等を、病院内の全ての部署に周知徹底し、迅速かつ確実に対策を実施する。各委員は、診療科内・部門内の教職員などで、感染症が発生した場合、情報収集や適切な初期対策を実施して、ICT に通報し、ICT と連携して対応に努める。 構成員：全診療科、全部門・全部署の代表者（55 名） ・ 主な報告・周知内容は、薬剤耐性菌・血液培養陽性などの微生物検査結果の動向、病院内で発生している感染症の発生状況と感染対策、抗菌薬など感染症治療薬の 	

使用状況と適正な使用方法、各部門・部署での手指衛生遵守率調査結果・改善活動報告、結核の早期発見、血液曝露発生状況、院内感染対策教育の推進など。

感染専門委員の活動例：新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症、疑いを含む結核、薬剤耐性菌などの発生時に、ICTのリーダーシップのもと現場対応に協力する。
診療科・部門内で自らが主体的に取組み、主治医らへの指導、患者への説明、それぞれの情報の取りまとめなどを実施する

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

年 2 回

・研修の内容（すべて）：

1) 全教職員向け（年2回）

院内での感染・感染症発生状況、感染対策の基本的な考え方と具体的な方策・意識向上、抗菌薬適正使用を目標とした感染対策講習会（eラーニング）を年2回受講し、理解度確認テストを実施している。

2023年度感染対策講習会実施状況

公開日	講習会名	対象者・主な内容
6月28日	第1回 感染対策講習会 (必須研修)	【対象者：全教職員】 「薬剤耐性菌対策 ～抗菌薬の適正使用と手指衛生～」 1. 薬剤耐性菌について 2. 抗菌薬の適正使用 3. 患者を守る、自分を守る手指衛生
10月26日	第2回 感染対策講習会 (必須研修)	【対象者：全教職員】 「スタンダードプリコーションと抗菌薬について学ぼう」 1. SPとはどのような感染対策か 2. 血液媒介病原体曝露防止対策について 3. キノロンの基礎知識と特徴について

2024年3月末までに対象者3,520名全員が感染対策講習会を2回分受講し、理解度確認テストを合格した。

2) 継続勤務者の教育

前年度から勤務を継続している教職員は、4月の時点で感染対策の必要性、実施状況などを確認するため「感染制御基本事項確認テスト」を実施している。内容は、手指衛生、標準予防策、抗菌薬適正使用などのほか、教職員に必要なワクチン接種状況を確認するものである。対象者は2,700名が実施した。

3) 医療従事者向け

2022年より医療従事者は、職種に関係なく感染対策を実施するようスタンダードプリコーションライセンス制度を設けている。実技試験合格者はプラクティショナーと他者へ指導するインストラクターの二段構成。2023年のライセンス取得者は、プラクティショナー441名、インストラクター39名であった。

4) その他

職種や業務内容に応じて、手指衛生・防護具着用・結核用N95マスクフィットテスト、職業感染防止、医療器具関連感染防止などの実技を含む教育を対象別に実施している。

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
感染制御部（ICT）が中心となり、下記内容を実施している。

1) 各種サーベイランス

- ・ 血液培養
- ・ 薬剤耐性菌・抗酸菌など微生物別
- ・ BSI/UTI/VAPターゲット別サーベイランス（ICU、HCU、NICU、全病棟）
- ・ 心臓血管外科・呼吸器外科SSIサーベイランス。一般・消化器外科SSIサーベイランスは診療科実施に協力
- ・ 針刺し・切創/血液曝露
- ・ 手指衛生遵守率調査・防護具着用遵守率調査、手指衛生資材使用量調査
- ・ 消化器症状症候群サーベイランス
- ・ 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、感染性胃腸炎など教職員感染症発生状況

2) 各種ラウンド

- ・ 微生物データにもとづく薬剤耐性菌・血液培養ラウンド 全273回
ラウンド目的詳細内訳は、血液培養陽性・薬剤耐性菌、血液培養以外の無菌検体の微生物検査報告であり、病院診療日は毎日実施し、個々の患者の診療に役立てるようにしている。
- ・ 許可制・届出制特定抗菌薬ラウンド（使用状況把握および介入） 全273回
届出の確認、使用理由・適正などを確認。必要があれば量と種類について担当医と相談。
- ・ 感染対策担当者、施設・清掃担当者の協働による施設環境ラウンド 全40回、延べ78部署
感染対策をすすめるうえで設備的な問題はないか、清掃が行き届いているか、現場での対策が実施できているかなどをチェックする。現場へのフィードバックを行い、その後の改善状況を把握する。各委員会へ報告し改善に努める。
- ・ デバイス 部署により 週1回～月1回
CVカテーテル、尿道留置カテーテル、その他の医療器具や患者環境など周辺を適宜確認する。
- ・ 網羅的ラウンド 22クール
手指消毒薬の配置、期限、トイレ、作業スペース、作業室、準備室などが仕様書どおりに運用され、感染対策に破綻がないかなど目的を限定し短時間でも全ての病棟をラウンドすることで、全体の傾向や変化を把握し改善にいかすことを目的に実施。5日で全病棟をラウンドする。
- ・ ターゲットラウンド
短期的に解決をはかるため、職員喫食スペース、病棟の蛇口清掃に関するラウンドを実施した。

3) 院内周知・教育

- ・ 感染対策マニュアル作成および改訂
- ・ 教職員ポケットハンドブック作成および改訂
- ・ ICTニュースと電子カルテCLIPシステムによる情報提供

4) 感染症診療と感染対策に関するコンサルテーション

- ・ 医師、看護師、コメディカルなどからの個別の相談に応じている。

5) 職業感染対策

- ・ 教職員健康管理部門である保健管理センターとの協働により下記を実施している。

- ◆ 針刺し血液曝露

- 発生時の24時間対応、発生後フォロー、針刺し低減のための対策

- ◆ 流行性ウイルス疾患

- 年1回インフルエンザワクチン接種機会の提供
 - 免疫未獲得職員へのワクチン接種および接種証明書類提出の個別依頼

6) 地域連携

- ・ 下記他施設との連携により、自施設を評価し、それに基づき感染対策の改善に努めた。

- ◆ 私立医科大学1校との年1回の相互ラウンド

- 2023年10月27日 東海大学医学部附属病院訪問

- 2023年11月16日 慶應義塾大学病院受入

- ◆ 感染対策向上加算2取得施設、外来感染対策向上加算取得施設、新宿区保健所、慶應医師会との年4回の合同カンファレンス

- 2023年4月13日、7月27日、10月12日（新興感染症の発生を想定した訓練）

- 2024年1月25日実施

- ◆ 指導強化加算における訪問指導 2023年9月5日、9月14日、2024年1月16日、2月15日

- ◆ 連携施設以外からの感染症診療・感染対策に係る相談 49件

- ◆ 新宿区立四谷第六小学校への手指衛生指導

- 2023年10月2日実施 対象：2年生2クラス68名

7) 新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 2023年5月8日に5類感染症に移行したことを受け、対策の見直しと院内の関連部署との調整を行った。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2023年4月配信 研修医・専修医オーダーリングトレーニング（研修医 65名） 【研修内容】基本的な処方を入力操作を習得する。 • 2023年5月配信 静脈注射研修（看護師 122名） 【研修内容】薬剤の基礎知識と管理を含めた講義と演習：静脈注射を実施するうえで薬剤の基礎知識と管理について • 2023年4月配信 研修医オリエンテーション（研修医 65名） 【研修内容】医薬品の安全管理について、医薬品の安全使用に係わる業務手順書について、重点管理ハイリスク薬、未承認新規医薬品等の取扱いについて • 2023年4月11日から4月27日 研修医注射点滴実習「処方入力時の注意と点滴調製の手技」（研修医 65名） 【研修内容】注射薬を無菌的に調製する方法を実際の薬を用いて実習する。凍結乾燥品のバイアル溶解し、補液へ混合しインスリンを加える。配合変化を体験してその回避方法を学ぶ • 2023年5月～8月 重点管理ハイリスク薬の運用・管理について（看護師 88名） 【研修内容】当院の重点管理ハイリスク薬の注意点、今までのインシデント事例 • 2023年6月配信 医療安全研修 e-ラーニング必須研修（教職員全員：3520名） 【研修内容】医薬品の安全管理について、医薬品の安全使用に係わる業務手順書について、重点管理ハイリスク薬、未承認新規医薬品等の取扱いについて 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成（有・無）</p> <p>・手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「医薬品の安全使用のための業務手順書」作成マニュアル（2023年改訂版）に沿って、医薬品の購入管理、調剤室の薬品管理、病棟・各部門への薬剤の供給、入院・外来患者への使用、情報収集・管理・提供、院内各部門における医薬品の取り扱いを定めている。 • 年に1回手順書の内容をチェックリストとして作成し、病棟外来看護師、医師、薬剤師、診療放射線技師、ME等の各診療科・部門のセーフティマネージャーに、手順書に基づいて業務が実施されているか確認している。その後、病棟・外来のラウンドを行い、チェックリストでできていない部分や手順書で変更になっている部分を中心に確認している。 	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：
 - ・ 2023年度に未承認等新規医薬品・医療機器評価委員会で審議された未承認薬は 2 件、適応外・禁忌は 91件である。そのうち、未承認薬1件、適応外・禁忌は84件が承認された。
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 病棟配置薬削減に向けた取り組みを継続的に実施している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 105 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定医療機器（人工呼吸器、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置）に関する研修：26回 ・ 一般医療機器に関する研修：14回 ・ 新規医療機器に関する研修：65回 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・医療機器に係る計画の策定（有・無）</p> <p>・機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床工学技士による点検 除細動器、一部人工呼吸器 ・ 業者委託による保守点検 人工呼吸器、人工心肺装置及び補助循環装置、血液浄化装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、閉鎖式保育器 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備（有・無）</p> <p>・未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認 眼内レンズ（アイシーエルKS-AquaPORT） ・ 適応外 ゴア バイアバーン ステントグラフト <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工呼吸器とナースコール連携 ・ 医療機器の保守の拡大（病棟・外来） 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 責任者の資格 (医師・歯科医師) 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <ul style="list-style-type: none"> 副病院長1名を医療安全管理責任者に配置。 医療安全管理責任者は医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者(薬剤師)、医療機器安全管理責任者(臨床工学技士)及び医療放射線安全管理責任者(医師)を統括している。 2018年4月1日より医療安全管理部門に専従医師を配置し、2024年7月1日より1名増員、専従医師2名体制としている。 	

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
----------------------	------------

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

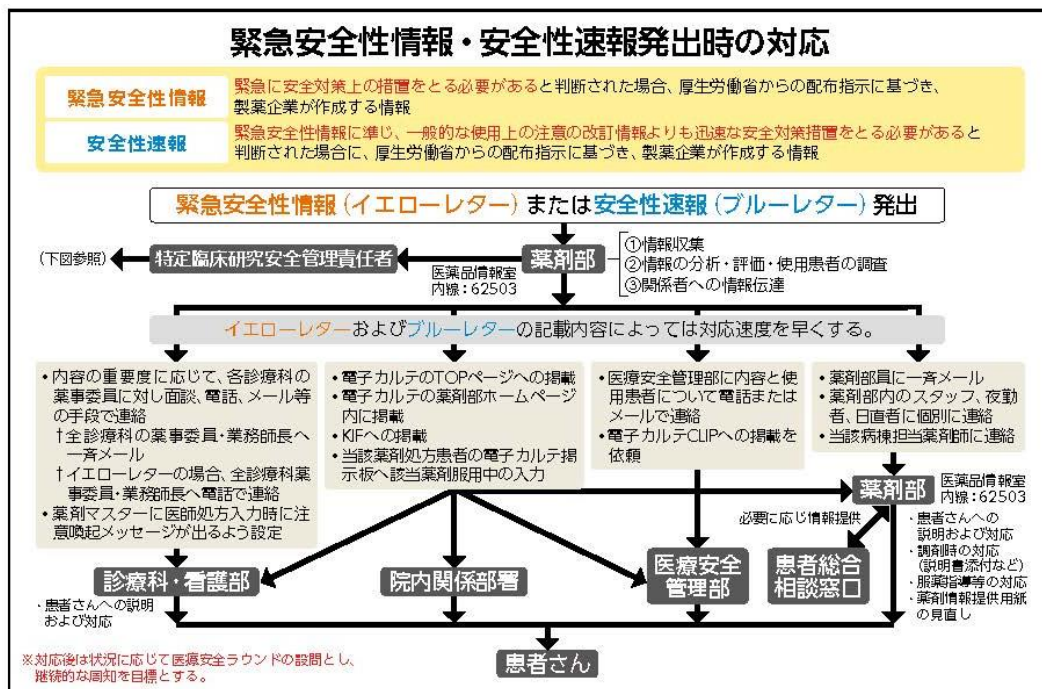
・ 情報の整理 (把握)

毎日 PMDA、厚生労働省、FDA などの web サイトを確認し、新規情報 (安全性情報や学術情報など) を把握している。メディアナビから送られてくる情報を併せて薬品添付文書 (電子添付文書)、インタビューフォーム、製品情報概要、使用上の注意の解説、各種文献、問い合わせの回答などの情報を電子ファイルとして電子カルテ内に格納している。添付文書、インタビューフォームなどの改訂情報については、年 1 回定期的に各製薬会社に確認している。2022 年 4 月から病棟担当薬剤師から必要な情報を必要な医師へ適切に医薬品情報が提供できているか確認する体制が整えられた。

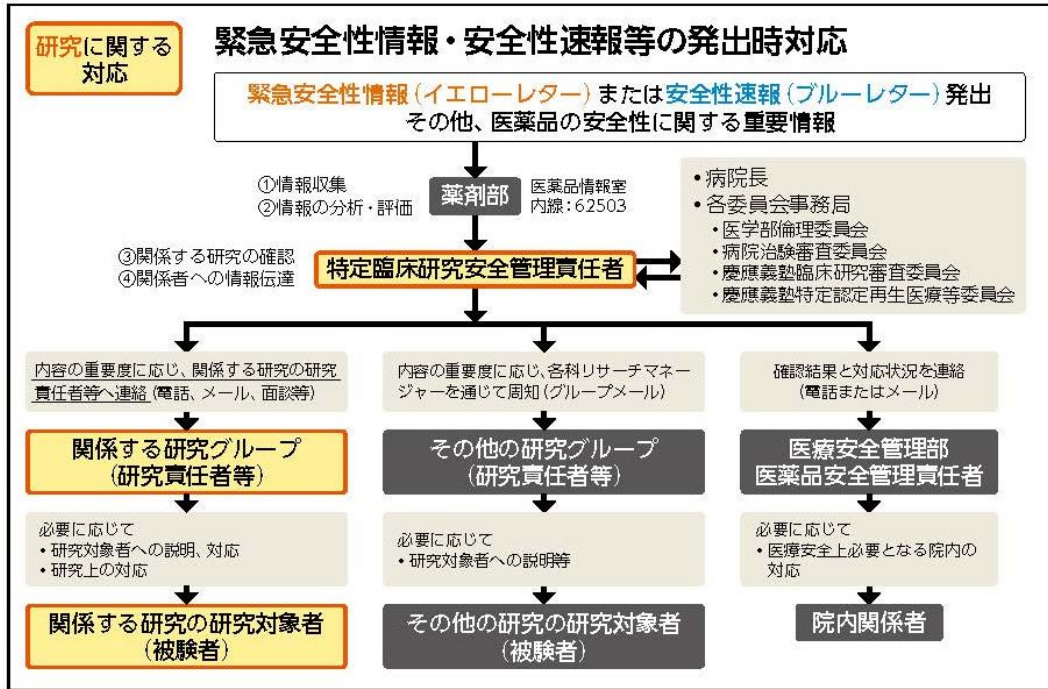
・ 情報の周知

➢ 「緊急安全性情報」や「安全性速報」が発出された場合ならびに「薬剤の自主回収 (クラス I)」の場合は、それぞれ院内で取り決めたフローチャートに従い、各職種へフィードバックしている。各フローチャートは教職員ポケットハンドブックで常時確認することができる (下図参照)。

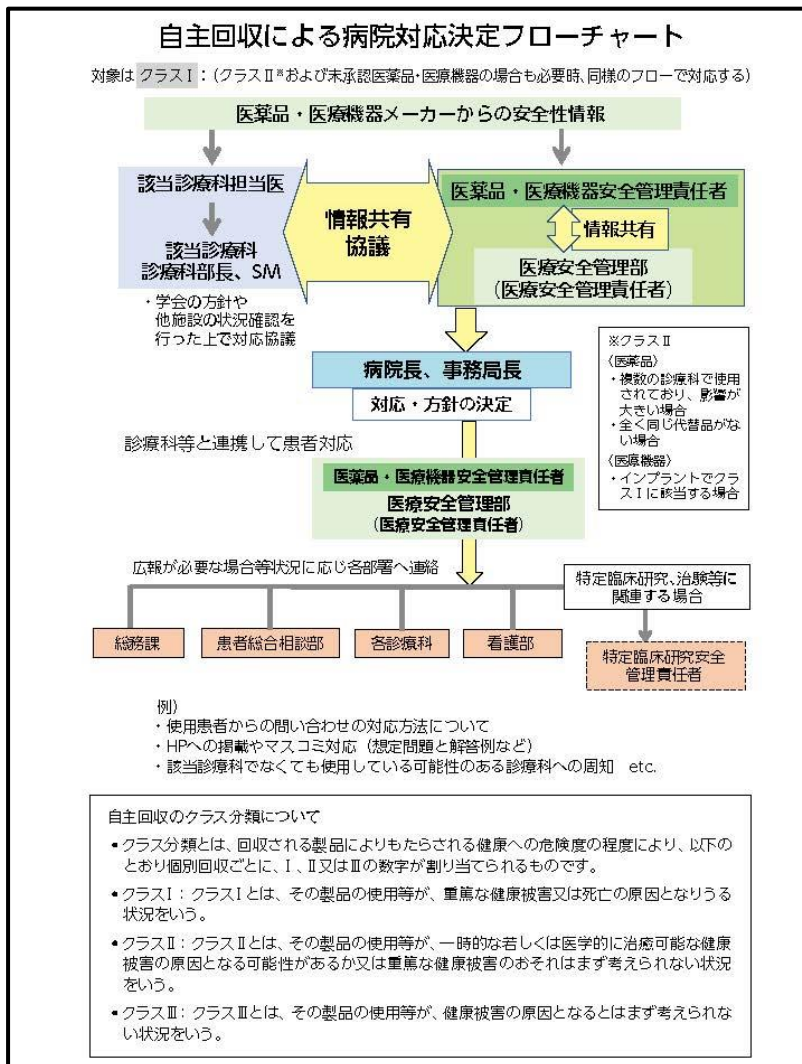
<図 1> 緊急安全情報・安全性速報発出時の対応フローチャート



<図 2> 緊急安全情報・安全性速報発出時の対応（研究）フローチャート



<図 3> 自主回収による病院対応決定フローチャート



なお、最近では供給停止などの案件も多いことから、状況によって上記フローチャートと同様の方法で情報提供をしている。

- 「医薬品・医療機器安全性情報」が発出された場合は、各診療科の薬事委員を通じて全診療科へメールにて情報を配信し、同時に教職員イントラサイト（KIF）および電子カルテへ掲載し、必要に応じて別途書面も配布する。特に周知が必要な情報については、医療安全管理部のシステムを活用し、院内全体の閲覧人数が把握できるほか、閲覧していないスタッフには閲覧を促すことも可能である。
- 「医薬品安全対策情報（DSU）」、「使用上の注意の改訂指示」が発出された場合は、当院での取り扱い品目に限り商品名を併記し、サマリーを追記した上で各診療科の薬事委員、薬剤部員へメール配信している。こちらも必要に応じて、教職員イントラサイトおよび電子カルテへの掲載、書面配布などにより周知する。特に安全面で影響が大きいと考えられる事例では患者を検索し、薬事委員や専門医と連携して対応を検討し、薬剤部員への情報共有を行う。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

- ・未承認医薬品、医薬品の適応外使用、禁忌医薬品の使用状況や必要に応じた医師等への処方変更等の提案とその結果については、処方監査時の疑義照会記録や電子カルテのデータベース機能等を用いて把握し、定期的に（月1回）、使用の必要性等の確認と把握方法の見直しを行っている。また、必要に応じて、医師等に必要な申請や報告を促す等の指導を行っている。
- ・診療科部長より医療安全管理部に使用申請された、「未承認」「適応外」「禁忌」に該当する医薬品に関して、医療安全管理部と連携して申請内容を確認し、薬学的知見に基づき、必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無、妥当性等を確認している。
- ・医療安全管理部に申請され、承認された「未承認」「適応外」「禁忌」に該当する医薬品やその使用状況については、病院運営会議にて病院長へ報告し、病院診療会議にて院内へ共有している。

・担当者の指名の有無（・無）

・担当者の所属・職種：

（ 所属：医学部・薬剤部， 職種：薬剤師 ）

（ 所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師 ）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

・無

- ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（・無）
- ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
 - ・インフォームド・コンセント委員会を設置し、その委員長を説明に関する責任者とした。
 - ・説明等の実施に必要な方法に関する規定として、インフォームド・コンセントガイドラインを定めている。
 - ・診療記録管理監査委員会内規に基づき監査を実施。結果は当該診療科および診療記録管理監査委員会、病院診療会議、病院運営会議にフィードバックしている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

・無

- ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：
 - ・「診療録の記載に関するガイドライン」を作成。副病院長を委員長とする診療記録管理監査委員会が、「診療記録監査実施要項」を基に多職種による監査を行っている。結果は当該診療科および診療記録管理監査委員会、病院診療会議、病院運営会議にフィードバックしている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

・無

- ・所属職員：専従（ 12 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 9 ）名
- うち医師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 5 ）名
- うち薬剤師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名
- うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 医療安全管理委員会で用いられる資料および議事録の作成・保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること
2. 医療事故等に関する診療録やその他診療記録の確認および指導
3. 医療事故等発生時の対応状況の確認および当該部門に対する指導
4. 必要に応じ患者又は家族への説明
5. 医療事故等の原因究明のための調査および分析
6. 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策の実施状況および評価結果を記録すること
7. 医療安全管理委員会との連携状況、院内研修の実績、患者等の相談件数および相談内容、相談後の取り扱い、その他の医療安全管理者の活動実績を記録すること
8. 医療安全管理委員会に決定した事項に基づき医療に係る安全確保や業務改善の方策立案および実施・評価ならびに従業者への周知
9. 医療安全に係る連絡調整に関すること
10. 医療安全に関する苦情や相談への対応と方策の立案および実施
11. 従業者の医療安全に関する周知活動とその確認
12. 医療安全に資する診療内容等についてのモニタリング
13. 医療安全対策に関わる取組みの評価等を行うカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全管理委員会の構成委員および必要に応じて各部門の医療安全管理部の担当者等が参加していること
14. 他の特定機能病院間相互のピアレビューの実施
15. 未承認新規医薬品・医療機器評価委員会に関する事項
16. 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者および医療放射線安全管理責任者の業務については、医療法施行規則第一条の十一の規程に基づき行う
17. その他医療安全対策に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 22 件）、及び許可件数（ 22 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）

・活動の主な内容：

- ・高難度新規医療技術評価委員会の開催
- ・実施報告書の提出
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（122件）、及び許可件数（112件）
（申請件数－許可件数10件のうち、申請取り下げ7件、審査中3件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・未承認等新規医薬品・医療機器の使用の適否等について意見を述べる未承認等新規医薬品・医療機器評価委員会を設置する。
 - ・医療安全管理部長からの意見の求めに応じ、申請された未承認等新規医薬品・医療機器の使用に対し、倫理的・科学的な妥当性及び当該未承認医薬品・医療機器の適切な使用の適否、使用条件及び使用後に報告をを求める症例等について審査を行う。
 - ・委員会は、科学的根拠が確立していない医薬品・医療機器については、科学的根拠の構築に資する使用方法について検討する。
 - ・委員会は、使用の適否、使用条件及び使用後に報告を求める症例について、医療安全管理部長に意見を述べる。
 - ・医療安全管理部長は、委員長からの意見を踏まえ、当該未承認等新規医薬品・医療機器の使用の適否及び使用条件等について決定し、診療科部門等の長に対しその結果を通知する。
 - ・医療安全管理部長は、診療録等の記載内容を確認し、当該未承認等新規医薬品・医療機器が適正な手続きに基づいて使用されたかについて、遵守状況を確認する。遵守されていないと認められる場合、使用を中止させることができる。また、使用後に対象患者が死亡した場合、その他必要な場合にも、同様に遵守状況を確認する。
 - ・医療安全管理部長は適否の判定結果、および各確認事項について、遅滞なく病院長ならびに病院運営会議に対し報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 323 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 218 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容：
 - ・死亡・死産症例は、医療安全管理部が管理日誌・周産期システム等により、全死亡・死産事例を把握し、報告書及びカンファレンス入力状況を医療安全管理委員会で報告している。
 - ・電子カルテ「CLIP インシデント報告分析システム」の報告書から問題点を把握し、事実確認を行っている。
 - ・カルテやヒアリング等で全体を把握し、根本原因を分析、安全確保のための方策を立案し、周知を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り
（（病院名：東海大学医学部附属病院、国立国際医療研究センター病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ
（（病院名：東海大学医学部附属病院、国立国際医療研究センター病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
インシデントやアクシデントの報告等の状況、医療安全管理委員会の業務の状況、医薬品等の安全使用体制の状況、高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の

適否等を決定する部門の運用状況、監査委員会の業務の結果及び監査委員会からの指摘への対応状況に対する技術的助言はなかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- 患者さんやそのご家族が気軽に相談できるように、「総合相談窓口」を2号館1階1R（諸々の相談対応を行うエリア）に配置し、窓口対応は病院診療日に原則として、午前8時40分から午後4時30分で行っている（事前予約なし）。また、相談方法は他にも、電話相談（窓口対応と同じ時間帯）、院内29箇所に設置されたご意見箱への投書、24時間受付のweb相談フォーム、web投書フォーム、など患者さんの状況によって選んでいただける多様な手段がある。
- 相談内容に「医療安全に関する相談」を明記しポスター等で周知しており、安全管理に関する相談も前述した多様な手段で相談できるようにしている。
- 相談窓口担当者には、看護師、MSW、事務員を専従で配置し、患者さんの声を傾聴すること、必要に応じて医療安全管理部と連携を取ることで、迅速かつ適切な対応をすること、相談においては患者さんと病院との中立的な立場を保ちながら対応することなどを心掛けている。
- 対応した相談内容は全例報告書を作成し、電子カルテ内の報告システム（CLIP）で情報管理をおこなうことで、医療安全管理部と相談内容の共有もすすめている。
- 医療安全管理部のスタッフも加わった患者サポートカンファレンス、患者サポート運営委員会を定期的実施し、また医療安全管理委員会においては、患者総合相談部より定例の月例報告と必要に応じた事例報告を行っており、相談内容の検討と情報共有を推し進め、医療安全機能の向上に努めている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- インフォームド・コンセント、高難度・未承認、公益通報窓口に関する事項を含む内容をe-ラーニングで実施。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- 管理者：
2024年2月6日受講 2023年度 特定機能病院管理者研修（継続）
- 医療安全管理責任者：
2024年1月15日受講 2023年度 特定機能病院管理者研修（継続）
- 医薬品安全管理責任者：
2023年12月15日受講 2023年度 特定機能病院管理者研修（継続）
- 医療機器安全管理責任者：
2023年12月15日受講 2023年度 特定機能病院管理者研修（継続）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

- 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価「3rdG: Ver. 2.0・一般病院3」の認定を受けている。

受審日：2022年9月13日～15日

認定交付日：2023年3月10日（認定期間：2022年11月10日～2027年11月9日）

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

- 病院ウェブサイト上で認定を受けていることを公表しており、「病院機能評価結果の情報提供」（機構ウェブサイトへのリンク）から受審結果の詳細を確認することができる。

・ 評価を踏まえ講じた措置

- 改善要望事項に該当する項目はなし。
- 審査結果報告の内容に基づき、B評価項目（11項目）およびA評価のうち課題のある項目（5項目）を中心として、継続的な改善活動に取り組んでいる。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

1. 医療の安全の確保のために必要な資質および能力として、医療安全管理業務の経験を有し、患者安全を第一に考える姿勢および指導力を有する者
2. 当院を管理運営する上で必要な資質および能力を有し、当院内外での組織管理経験を有する者
3. 高度の医療を提供すること、高度の医療技術の開発および評価を行うこと、高度の医療に関する研修を行わせることなど、特定機能病院に求められる役割を十分理解し、その発展にリーダーシップを発揮できる者
4. 関係法令等を十分理解し、法令を遵守した病院運営を担える者
5. 安心・安全な医療の提供と、安定的な収益確保とのバランスを考えた健全で全体最適な病院運営を担える者
6. 次代の病院執行部の育成を担える者
7. 病院の社会的使命を十分理解し、その発展に努めることができる者
8. 病院開設者である理事長や常任理事会、行政その他関係機関との間で信頼関係を構築し、適切な連携を図れる者
9. 慶應義塾の専任教職員として、病院の管理者としての業務に専念できる者

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

- 病院ウェブサイトにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院ウェブサイトにて公表 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
北川 雄光	慶應義塾常任理事	○	慶應義塾大学病院長選考規程第3条第3項第1号に基づく役職指定。大学病院担当常任理事として、大学病院に係る常務を主管する。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
古田 正	慶應義塾大学病院事務局長		慶應義塾大学病院長選考規程第3条第3項第2号に基づく役職指定。大学病院事務局長として、病院運営および組織管理に識見と経験を有する。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
加藤 恵里子	慶應義塾大学病院看護部長		慶應義塾大学病院長選考規程第3条第3項第3号に基づく役職指定。大学病院看護部長として、病院運営および組織管理に識見と経験を有する。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
金井 隆典	慶應義塾大学医学部長		慶應義塾大学病院長選考規程第3条第3項第4号に基づく役職指定。医学部長として、医学教育・研究・医療に精通し、組織管理に識見と経験を有する。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
天谷 雅行	慶應義塾常任理事		常任理事として病院経営改革を担当(共管)し、病院業務監督ボードアドバイザーとして当院の運営に参画している。医学部長の経験から医学教育・研究・医療に精通している。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
山内 慶太	慶應義塾常任理事		常任理事として大学の組織管理に識見と経験を有する。医療政策・管理学に精通し、病院業務監督ボードアドバイザーとして当院の運営に参画している。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
山岸 広太郎	慶應義塾常任理事		常任理事として病院経営改革を担当(共管)し、病院業務監督ボードアドバイザーとして当院の運営に参画している。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

廣田 とし子	慶應義塾塾監局長		塾監局長として大学の組織管理に識見と経験を有し、病院業務監督ボード委員として当院の運営に参画している。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
大津 敦	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 病院長		現職の病院管理者として病院運営および組織管理に識見と経験を有し、特定臨床研究監査委員長として当院の運営に参画いただいている。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
工藤 禎子	株式会社三井住友フィナンシャルグループ 取締役執行役専務／株式会社三井住友銀行 取締役兼専務執行役員		企業役員として組織管理に識見と経験を有し、病院業務監督ボード委員として当院の運営に参画いただいている。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
高木 誠	東京都済生会中央病院 名誉院長		病院管理者の経験から病院運営および組織管理に豊富な識見を有し、病院業務監督ボード委員として当院の運営に参画いただいている。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
堀内 光一郎	富士急行株式会社 代表取締役社長		企業経営者として組織管理に識見と経験を有し、病院業務監督ボード委員として当院の運営に参画いただいている。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
山口 育子	認定 NPO 法人 ささえあい医療人権センター COML 理事長		医療を受ける者の立場を代表する患者支援団体の理事長として、医療安全の向上のために幅広く活動し、豊富な識見を有する。特定機能病院監査委員として当院の運営に参画いただいている。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
山口 徹	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 名誉院長		病院管理者の経験から病院運営および組織管理に豊富な識見を有し、特定機能病院監査委員長として当院の運営に参画いただいている。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> • 運営の方針 • 中期計画 • 予算案および決算に関する事項 • 各委員会等からの重要な提案事項 • 内規等の制定および改廃に関する事項 • 病院診療会議における周知・報告事項 • その他、病院長が必要と判断した事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> • 毎月1回、合議体（病院運営会議）の協議内容を周知する病院診療会議にて、全部門長への周知を行っている。また、あわせて特に重要な周知事項を全職員へメールにて配布し、各部署内で周知がなされたことを、部門長から病院長へ報告することとしている。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input type="checkbox"/>無 ） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
松本 守雄	○	医師	病院長
志水 秀行		医師	副病院長 医療安全管理部長（医療安全管理責任者） 手術・血管造影センター長 診療記録管理監査委員長
陣崎 雅弘		医師	副病院長 医療放射線安全管理責任者
佐々木 淳一		医師	副病院長 COI 委員長
福永 興壱		医師	副病院長
金子 祐子		医師	副病院長
内田 裕之		医師	副病院長 患者総合相談部長
藤澤 大介		医師	病院長補佐
鳴海 覚志		医師	病院長補佐
朝倉 啓介		医師	病院長補佐
古田 正		事務員	病院事務局長
加藤 恵里子		看護師	看護部長
金井 隆典		医師	医学部長
家田 真樹		医師	副医学部長
長谷川 直樹		医師	感染制御部長

村松 博		薬剤師	医薬品安全管理責任者
平林 則行		臨床工学技士	医療機器安全管理責任者
吉村 公雄		医師	医療政策・管理学専任講師
森岡 大智		事務員	病院事務局次長（経営企画担当）
田原 祥子		事務員	病院事務局次長（総務担当）
上野 圭祐		事務員	病院事務局次長（総務担当）
三保谷 照和		事務員	病院事務局次長（情報担当）
岩田 光晴		事務員	病院事務局次長（渉外担当）
市川 二葉		事務員	病院事務局次長（医療安全担当）
中山 泰徳		事務員	病院事務局次長（学術研究支援・調達会計担当）
鈴木 和久		事務員	病院事務局次長（医事担当）
山下 幸一郎		事務員	病院事務局次長（管財担当）
片岡 美樹		事務員	医療連携推進部次長
矢崎 久妙子		事務員	予防医療センター事務長
小林 佳郎 （オブザーバー）		医師（外部有識者）	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター院長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
 - 病院長は、病院管理者として大学病院を代表し、病院業務全般を統括する。
 - 病院長は、大学病院で行われる診療、教育、研究およびそれらに関する諸活動について、その実施を許可し、停止を決定する。また、実施状況について報告を求め、是正改善等を命ずることができる。
 - 各診療科および診療部門の長は、病院長が指名し、塾長が任命する。
 - 病院長は必要な場合にいつでも診療科部長等の権限を停止し、代行者を指名することができる。
 - 診療科部長等の解任は、病院長の上申に基づき塾長が決定する。後任者が任命されるまでの間、病院長は代行者を指名することができる。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 職名：副病院長
役割：病院長を補佐し、病院長が不在の場合はその職務を代行する。
 - 職名：病院長補佐
役割：病院長の定める職務に基づき、病院長を補佐する。
 - 職名：病院経営企画室
役割：病院内外の情報を戦略的・集中的に管理し、大学病院の経營業務に関連する企画、立案、事業計画、予算、調整に係る業務を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 管理者に求められる資質のひとつである医療安全管理業務の経験を踏まえ、副病院長全員が医療安全管理委員会に参画している他、若手医師を病院長補佐に登用することで役職経験を通じた人材の育成を図っている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院長、医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者等から報告を求め、必要に応じて自ら確認する。 2. 必要に応じ、塾長または病院長に対し、医療に係る安全管理については是正措置を講じるよう意見を表明する。 3. 1 および 2 に掲げる監査結果を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法： <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院ウェブサイトにて公表 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 徹	国家公務員共済組合 連合会 虎の門病院 名誉院長	○	虎の門病院の元病院長であり、病院 管理者として医療安全に携わり、幅 広い知識と豊富な実務経験を有す る	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
市村 尚子	認定NPO法人 コミュニティ・サポー トセンター神戸 スタッフ		前日本看護協会研修センター長で あり、管理者として医療安全につい て十分な知識と実務経験を有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
宇都宮 啓	公益財団法人 日本建築衛生管理 教育センター 理事長 他		厚生労働医官として永年にわたり 国内の医療行政に従事するととも に（2018-2019:健康局長など）、WHO にも派遣され、医療安全および国際 的基準での対応について幅広い知 識と 国内・国外における経験を有 する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
宮沢 忠彦	関谷・宗像法律事務所 弁護士		長年法曹界に身をおき、法律につい ての豊富な専門知識と実務経験を 有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
山口 育子	認定 NPO 法人 ささえあい医療人権 センターCOML 理事長 他		医療を受ける者の立場を代表する 患者支援団体の理事長として、医療 安全についての知識を有する	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

（注）「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

- 慶應義塾長（開設者）の下に設置されている業務監査室が実施する業務監査において、大学病院長の管理および運営に関する業務が適切に遂行されているかを診断し、あわせて法令遵守の観点から提言を行う体制となっている。
- 法人の監事による病院監査、医療法に基づく立入検査等に同席するとともに、病院業務監督ボードによる監督状況を踏まえ、病院の管理運営状況について法令遵守の観点から検証を行っている。
- 上記に加え、2022年度から業務監査室が病院の法令遵守状況について現場から直接情報収集する仕組み（執行部・管理職・その他スタッフへの定期的なアンケート調査、ヒアリング等）を整備し、監査を通じて指摘・改善を行うことでPDCAサイクルを回す取り組みを行っている。

・ 専門部署の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院担当常任理事を委員長とする会議体を設置。 ・ 病院が社会的使命を果たし、経営の健全性を確保し、その維持・向上に取り組んでいることを確認するため、病院長による病院の管理・運営の状況について点検・監督等を行うことを目的とする。 ・ 会議体の実施状況（ 年 11 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）（ 年 11 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> 無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：慶應義塾大学病院業務監督ボード			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
北川 雄光	慶應義塾 常任理事	○	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
工藤 禎子	株式会社三井住友フィナンシャルグループ 取締役執行役専務		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
高木 誠	東京都済生会中央病院 名誉院長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
堀内 光一郎	富士急行株式会社 代表取締役社長		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
松田 健太郎	慶應義塾 塾監局長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年 0 件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法
 - 慶應義塾大学ウェブサイト・総務課のイントラサイトに掲載、教職員ポケットハンドブック・病院ミッションカードに記載、全教職員対象の必須研修において全教職員に周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>病院ウェブサイト、冊子（総合案内、病院広報誌「すゝめ」）等により随時発信を行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>慶應義塾大学病院規程において、より良い治療を患者に提供することを目的として、複数の診療科や部門の教職員が対等な立場で組織横断的に連携・協力してチーム医療を実施するにあたっての活動単位を「診療クラスター」と位置付け、活動している。</p>	